

# 有価証券報告書

第 2 8 期

自 平成 25 年 4 月 1 日  
至 平成 26 年 3 月 31 日

- 1 本書は金融商品取引法第 24 条の 1 に基づく有価証券報告書を、同法第 27 条の 30 の 2 に規定する開示用電子情報処理組織（EDINET）を使用して提出したデータに、目次及び頁を付して出力・印刷したものであります。
- 2 本書には、監査報告書及び内部統制監査報告書、内部統制報告書並びに確認書を末尾に綴じ込んでおります。

## 目 次

表紙	頁
第1部 企業情報	1
第1 企業の概況	1
1 主要な経営指標等の推移	1
2 沿革	3
3 事業の内容	4
4 関係会社の状況	6
5 従業員の状況	7
第2 事業の状況	8
1 業績等の概要	8
2 生産、受注及び販売の状況	9
3 対処すべき課題	10
4 事業等のリスク	10
5 経営上の重要な契約等	13
6 研究開発活動	13
7 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析	13
第3 設備の状況	15
1 設備投資等の概要	15
2 主要な設備の状況	16
3 設備の新設、除却等の計画	17
第4 提出会社の状況	18
1 株式等の状況	18
2 自己株式の取得等の状況	22
3 配当政策	23
4 株価の推移	23
5 役員の状況	24
6 コーポレート・ガバナンスの状況	26
第5 経理の状況	30
1 連結財務諸表等	31
2 財務諸表等	63
第6 提出会社の株式事務の概要	77
第7 提出会社の参考情報	78
1 提出会社の親会社等の情報	78
2 その他の参考情報	78
第二部 提出会社の保証会社等の情報	79

(添付) 監査報告書及び内部統制監査報告書  
内部統制報告書  
確認書

**【表紙】**

**【提出書類】** 有価証券報告書

**【根拠条文】** 金融商品取引法第24条第1項

**【提出先】** 近畿財務局長

**【提出日】** 平成26年6月26日

**【事業年度】** 第28期(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

**【会社名】** 株式会社 成学社

**【英訳名】** SEIGAKUSYA CO., LTD.

**【代表者の役職氏名】** 代表取締役社長 太田 明弘

**【本店の所在の場所】** 大阪府大阪市北区中崎西3丁目1-2

**【電話番号】** 06-6373-1529

**【事務連絡者氏名】** 取締役経営企画部長 藤田 正人

**【最寄りの連絡場所】** 大阪府大阪市北区中崎西3丁目1-2

**【電話番号】** 06-6373-1595

**【事務連絡者氏名】** 取締役経営企画部長 藤田 正人

**【縦覧に供する場所】** 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

##### (1) 連結経営指標等

回次	第24期	第25期	第26期	第27期	第28期
決算年月	平成22年 5月	平成23年 3月	平成24年 3月	平成25年 3月	平成26年 3月
売上高 (千円)	6,858,039	6,854,965	8,704,317	9,689,040	10,032,453
経常利益 (千円)	221,093	593,287	617,819	649,407	510,324
当期純利益 (千円)	68,784	213,491	248,371	327,594	309,446
包括利益 (千円)	—	213,447	247,214	329,425	310,248
純資産額 (千円)	1,287,480	1,460,292	1,663,356	1,943,268	2,205,953
総資産額 (千円)	4,379,824	5,184,109	5,614,669	5,843,244	6,076,357
1株当たり純資産額 (円)	441.71	501.30	284.91	332.49	376.20
1株当たり当期純利益金額 (円)	23.70	73.34	42.64	56.08	52.85
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益金額 (円)	23.50	72.83	42.34	55.77	52.55
自己資本比率 (%)	29.4	28.2	29.6	33.3	36.3
自己資本利益率 (%)	5.4	15.6	15.9	18.2	14.9
株価収益率 (倍)	15.4	6.8	7.3	12.5	14.2
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	258,301	798,637	630,108	616,936	358,049
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	△1,163,899	△390,902	△335,368	△445,643	△439,185
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	952,291	△148,342	△177,836	△209,043	△35,640
現金及び現金同等物 の期末残高 (千円)	619,463	878,855	995,760	958,009	841,232
従業員数 〔外、平均臨時雇用者数〕 (名)	425 〔492〕	418 〔607〕	459 〔674〕	498 〔917〕	526 〔1,042〕

(注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 従業員数欄の〔外書〕は、臨時従業員の年間平均雇用人員（1日8時間換算）であります。

3 平成21年12月1日付で株式1株につき200株に分割しております。なお、第24期の1株当たり当期純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額は、期首に分割が行われたものとして計算しております。

4 平成22年8月27日開催の第24期定時株主総会において、「定款の一部変更の件」が承認され、決算日を5月31日から3月31日に変更いたしました。従いまして、決算期変更の経過期間となる第25期連結会計年度につきましては、平成22年6月1日から平成23年3月31日までの10ヵ月となっております。

5 平成24年10月1日付で株式1株につき2株に分割しております。なお、第26期及び第27期の1株当たり当期純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額は、期首に分割が行われたものとして計算しております。

## (2) 提出会社の経営指標等

回次		第24期	第25期	第26期	第27期	第28期
決算年月		平成22年 5 月	平成23年 3 月	平成24年 3 月	平成25年 3 月	平成26年 3 月
売上高	(千円)	6,528,174	6,352,800	8,092,816	9,050,651	9,482,192
経常利益	(千円)	209,660	562,524	565,227	599,192	522,206
当期純利益	(千円)	68,042	199,861	211,018	289,519	266,185
資本金	(千円)	230,208	230,208	230,708	231,208	233,608
発行済株式総数	(株)	2,911,200	2,911,200	2,919,200	5,844,800	5,864,000
純資産額	(千円)	1,248,030	1,407,827	1,574,482	1,816,319	2,035,742
総資産額	(千円)	4,216,742	4,984,191	5,377,882	5,697,420	5,736,083
1株当たり純資産額	(円)	428.70	483.60	269.69	310.77	347.17
1株当たり配当額 (内、1株当たり中間配当額)	(円)	12.50 (6.25)	15.40 (7.70)	16.40 (7.80)	8.70 (4.35)	9.20 (4.60)
1株当たり当期純利益金額	(円)	23.45	68.65	36.23	49.56	45.46
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益金額	(円)	23.24	68.18	35.97	49.29	45.20
自己資本比率	(%)	29.6	28.2	29.3	31.9	35.5
自己資本利益率	(%)	5.5	15.1	14.2	17.1	13.8
株価収益率	(倍)	15.6	7.3	8.5	14.1	16.5
配当性向	(%)	53.3	22.4	22.6	17.6	20.2
従業員数 〔外、平均臨時雇用者数〕	(名)	378 〔454〕	375 〔561〕	410 〔624〕	447 〔853〕	493 〔977〕

(注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 従業員数欄の〔外書〕は、臨時従業員の年間平均雇用人員（1日8時間換算）であります。

3 平成21年12月1日付で株式1株につき200株に分割しております。なお、第24期の1株当たり当期純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額は、期首に分割が行われたものとして計算しております。また、第24期の1株当たり配当額及び1株当たり中間配当額につきましては、株式分割後の金額を記載しており、実際の1株当たり中間配当額は1,250円となります。

4 平成22年8月27日開催の第24期定時株主総会において、「定款の一部変更の件」が承認され、決算日を5月31日から3月31日に変更いたしました。従いまして、決算期変更の経過期間となる第25期事業年度につきましては、平成22年6月1日から平成23年3月31日までの10ヵ月となっております。

5 平成24年10月1日付で株式1株につき2株に分割しております。なお、第26期及び第27期の1株当たり当期純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額は、期首に分割が行われたものとして計算しております。

また、第27期の1株当たり配当額及び1株当たり中間配当額につきましては、株式分割後の金額を記載しており、実際の1株当たり中間配当額は8.70円となります。

## 2 【沿革】

年月	概要
昭和62年1月	大阪府にて昭和57年7月に創業した個人経営の学習塾である開成教育セミナーを法人化 (株)成学社を設立
平成2年12月	「個別指導学院フリーステップ」として個別形態の進路指導、学習指導を開始
平成9年7月	「フリーステップ代ゼミサテライン予備校」（現「開成教育グループ代ゼミサテライン予備校」）として衛星授業による学習指導を開始
平成9年8月	兵庫県での教室展開を開始
平成11年3月	滋賀県での教室展開を開始
平成13年10月	個別指導学院フリーステップ フランチャイズ事業を開始
平成14年7月	京都府での教室展開を開始
平成14年12月	「開成ハイスクール」として高校生向けの進路指導、学習指導を開始
平成15年5月	全額出資子会社(有)アドユニット(現(株)アプリス)設立
平成15年6月	飲食事業を開始
平成16年7月	不動産賃貸事業を開始
平成17年9月	奈良県での教室展開を開始
平成17年10月	飲食事業を全額出資子会社(株)アプリスに移管
平成20年3月	(株)ファイブランズより学習塾を譲受、「エール進学教室」を開校
平成20年8月	ジャスダック証券取引所（現東京証券取引所JASDAQ（スタンダード））へ株式を上場
平成21年3月	(株)進学教育研究所より学習塾を譲受、「京大セミナー」を開校
平成21年12月	兵庫県東播磨地区で個別指導形態の学習塾を展開する(株)個夢の全株式を取得し連結子会社化、 「個別教育システム アイナック」を開校
平成22年2月	連結子会社(株)東京フェリックスを設立
平成23年3月	東京都での教室展開を開始
平成23年12月	英語を公用語とする外国人講師の派遣事業ならびに英会話教室「I V Y」の運営を行う (株)アイビーを連結子会社化
平成25年10月	当社を存続会社として(株)東京フェリックスを吸収合併 (株)アプリスを存続会社として(株)アイビーを吸収合併
平成26年3月	小学生の滞在型アフタースクール「かいせい こどもスクール」を開始

### 3 【事業の内容】

当社グループは、当社と当社連結子会社である㈱アプリス、㈱個夢の計3社で構成されており、教育関連事業を主とし、不動産賃貸事業、飲食事業に取り組んでおります。

当社グループの事業における位置付け及びセグメントとの関連は、次のとおりであります。なお、セグメントと同一の区分であります。

#### (1) 教育関連事業

当社は、小学生から高校卒業生までを対象としてクラス指導と個別指導の2部門に分けて学習指導を行っております。「もっと伸びる、信頼の指導」をモットーに、大阪府を中心とした近畿圏並びに東京都に学習塾を展開しております。

クラス指導部門は、「開成教育セミナー」、「エール進学教室」、「京大セミナー」、「サンライトアカデミー」の塾名で教室を展開しております。中学受験に特化した「開成ベガ」、現役高校生を対象とした「開成ハイスクール」のコースを設け、学力別クラス編成に基づいた指導を行っております。また、小学生の滞在型アフタースクール「かいせい こどもスクール」を運営しております。

個別指導部門は、「個別指導学院フリーステップ」、「ハイグレード個人指導ソフィア」、「開成教育グループ代ゼミサテライン予備校」の塾名で教室を展開しております。また、「個別指導学院フリーステップ」の塾名でフランチャイズ事業を展開しております。

当社連結子会社では、家庭教師の「信頼の家庭教師スコール」、兵庫県東播磨地区で展開する「個別教育システム アイナック」、英会話教室「I V Y (アイビー)」を運営しております。また、学校法人への講師派遣並びに英語を公用語とする外国人講師の派遣を行っております。

平成26年3月31日現在

指導形態	ブランド名	内容	指導形態別都府県別教室数		
			大阪	滋賀	他
クラス指導	開成教育セミナー	小学生・中学生・高校生を対象にしたクラス指導形態の学習指導・進路指導	56	20	18
	エール進学教室	小学生・中学生・高校生を対象にしたクラス指導形態の学習指導・進路指導	2	—	—
	京大セミナー	小学生・中学生・高校生を対象にしたクラス指導形態の学習指導・進路指導	8	—	1
	サンライトアカデミー	小学生・中学生を対象にしたクラス指導形態の学習指導・進路指導	1	—	—
	I V Y (アイビー)	大学生・社会人を対象にした英会話教室	2	—	—
	かいせい こどもスクール	小学生を対象にした放課後や長期休暇中における保育活動	1	—	—
個別指導	個別指導学院フリーステップ	小学生・中学生・高校生・高校卒業生を対象にした個別形態の学習指導・進路指導	98 (1)	18	39 (2)
	ハイグレード個人指導ソフィア	塾生1人につき講師1人が指導を行う完全個別指導形態の学習指導・進路指導	3	—	—
	開成教育グループ代ゼミサテライン予備校	代々木ゼミナールと提携し、高校生及び高校卒業生を対象に通信衛星を通じた講座を開講	12	5	4
	個別教育システム アイナック	小学生・中学生・高校生を対象にした個別指導形態の学習指導・進路指導	—	—	5
	信頼の家庭教師スコール	家庭教師による学習指導・進路指導	—	—	—

(注) 1 ( )内は外数でフランチャイズの教室数であります。

2 各府県における拠点数は大阪府133教室、滋賀県28教室、他53教室であります。

(主な関係会社) 当社、㈱アプリス及び㈱個夢

#### (2) 不動産賃貸事業

不動産を効率的に活用するため、所有不動産の一部を賃貸しております。

(主な関係会社) 当社及び㈱アプリス



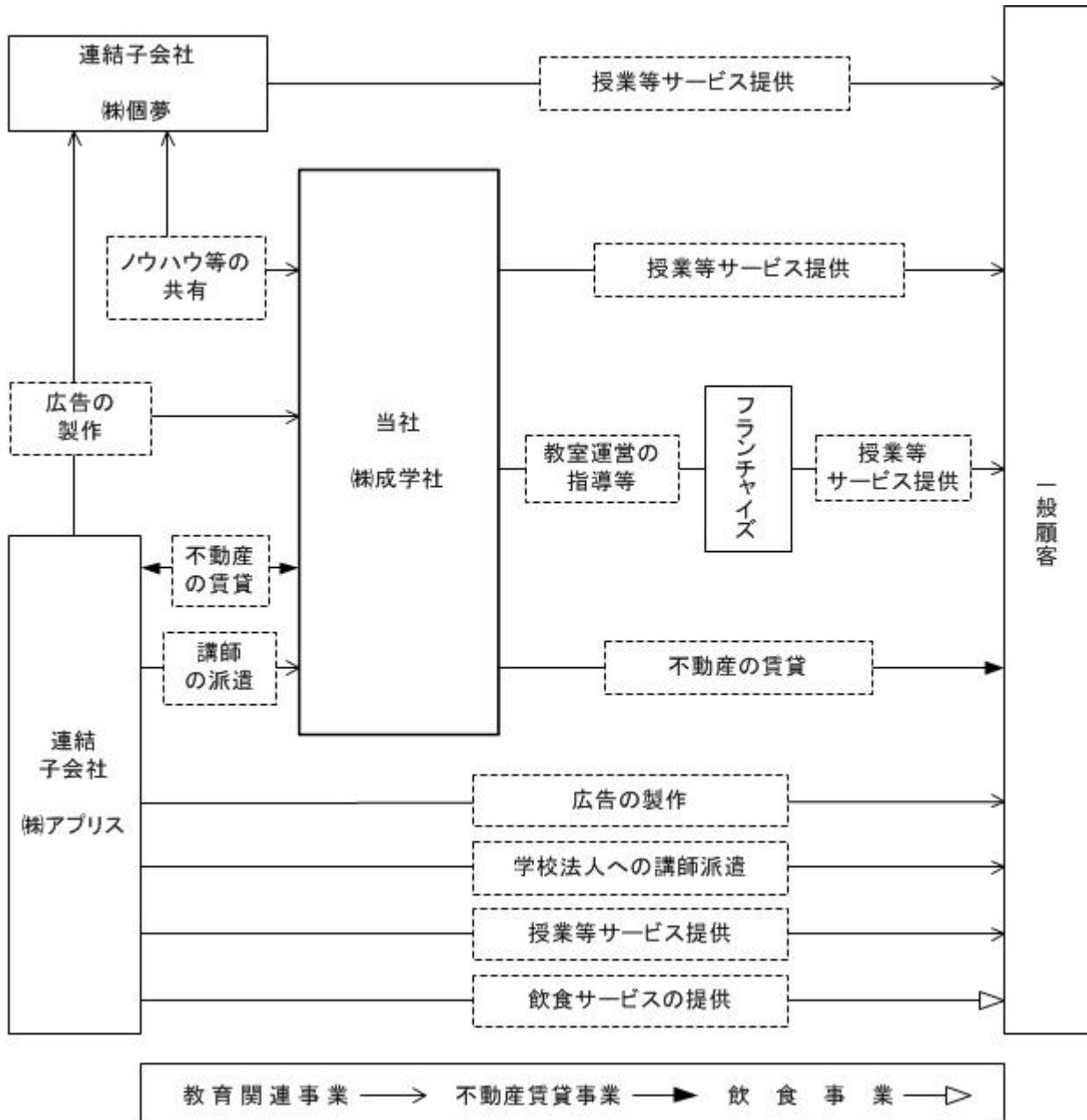
(3) 飲食事業

当社連結子会社(株)アプリスにおいて、3店舗を運営しております。

京丹波の食材を生かしたメニューと自家製豆腐料理を提供する店舗を2店舗、居酒屋形態の店舗を1店舗、大阪市にて運営しております。

(主な関係会社) (株)アプリス

事業系統図



#### 4 【関係会社の状況】

連結子会社は、次のとおりであります。

名称	住所	資本金 (千円)	主要な事業 の内容	議決権の 所有割合 (%)	関係内容
(株)アプリス (注) 2	大阪市北区	32,500	教育関連事業 不動産賃貸事業 飲食事業	100.0	広告・印刷物等の製作、講師派遣、不動産賃貸、飲食店舗・外国語教室の運営を行っております。当社は、銀行借入の債務保証及び担保提供を行っております。また、不動産の賃貸借契約を締結しております。 役員の兼任は4名であります。
(株)個夢 (注) 2	兵庫県明石市	25,000	教育関連事業	100.0	兵庫県の明石市ならびに加古川市において個別指導専門塾の運営を行っております。当社は、銀行借入の債務保証を行っております。 役員の兼任は4名であります。

(注) 1 「主要な事業の内容」欄には、セグメントの名称を記載しております。

2 特定子会社に該当しております。

3 有価証券届出書又は有価証券報告書を提出している会社はありません。

4 当社は平成25年10月1日付で、連結子会社でありました株式会社東京フェリックスを吸収合併いたしました。

5 株式会社アプリスは、平成25年10月1日付で、連結子会社でありました株式会社アイビーを吸収合併いたしました。

その他の関係会社は、次のとおりであります。

名称	住所	資本金 (千円)	主要な事業 の内容	議決権の 被所有割合 (%)	関係内容
(株)ニューウェーブ (注) 1, 2	大阪府吹田市	10,000	有価証券の 所有、売買	26.02	当社主要株主 役員の兼任は1名であります。

(注) 1 有価証券届出書又は有価証券報告書を提出していません。

2 当社代表取締役社長太田明弘及びその親族が保有する資産管理会社であります。

## 5 【従業員の状況】

### (1) 連結会社の状況

平成26年3月31日現在

セグメントの名称	従業員数(名)
教育関連事業	495 [1,022]
不動産賃貸事業	0 [0]
飲食事業	6 [17]
全社(共通)	25 [3]
合計	526 [1,042]

- (注) 1 従業員数は就業人員であります。  
 2 従業員数欄の〔外書〕は、臨時従業員の年間平均雇用人員（1日8時間換算）であります。  
 3 臨時従業員には契約社員、非常勤講師、パートタイム従業員の従業員を含み、派遣社員を除いております。  
 4 全社(共通)として記載されている従業員数は、特定のセグメントに区分できない管理部門に所属している従業員であります。  
 5 不動産賃貸事業は管理部門の従業員が兼務で運営、管理を行っており、専任の従業員はおりません。

### (2) 提出会社の状況

平成26年3月31日現在

従業員数(名)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(円)
493 [977]	36.71	6.42	4,227,580

セグメントの名称	従業員数(名)
教育関連事業	468 [974]
不動産賃貸事業	0 [0]
全社(共通)	25 [3]
合計	493 [977]

- (注) 1 従業員数は就業人員であります。  
 2 従業員数欄の〔外書〕は、臨時従業員の年間平均雇用人員（1日8時間換算）であります。  
 3 臨時従業員には契約社員、非常勤講師、パートタイム従業員の従業員を含み、派遣社員を除いております。  
 4 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。  
 5 全社(共通)として記載されている従業員数は、特定のセグメントに区分できない管理部門に所属している従業員であります。  
 6 不動産賃貸事業は管理部門の従業員が兼務で運営、管理を行っており、専任の従業員はおりません。  
 7 前事業年度末に比べ従業員数が46名増加しておりますが、主な理由は、株式会社東京フェリックスとの合併に伴う従業員引継及び教育関連事業における事業拡大に伴うものであります。

### (3) 労働組合の状況

労働組合は結成されておりませんが、労使関係は良好であり、特記すべき事項はありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【業績等の概要】

#### (1) 業績

当連結会計年度における我が国経済は、政府による経済政策、金融政策に対する期待感から円高の是正、株価の上昇傾向が続き、景気は緩やかな回復の兆しを見せました。一方、円安に伴う製品価格の上昇や消費税率変更による家計への負担増加の懸念も強く、景気の先行きは不透明な状況が続いております。

当業界におきましては、先行き不透明な経済環境に加え、少子化による学齢人口の減少、ニーズの多様化により、業界内の競争は厳しさを増しております。また、シェアの拡大と競争力強化を図るため、業務提携、M&A等による業界再編の動きが活発になっております。

このような状況の下、主要な事業である教育関連事業の好調な業績に支えられ、当社グループの当連結会計年度における売上高は10,032,453千円（前年同期比3.5%増）となったものの、先行投資を積極的に行ったこと、飲食事業が不調だったことにより、営業利益は517,705千円（前年同期比20.5%減）、経常利益は510,324千円（前年同期比21.4%減）、当期純利益は309,446千円（前年同期比5.5%減）となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

#### ① 教育関連事業

塾生数については、当社グループにおいて例年ピークを迎える11月時点において、25,481人（前年同月比34人減）と厳しい状況となりました。個別指導部門では14,889人（同492人増）と堅調に推移したものの、クラス指導部門では10,592人（同526人減）となり、新年度及び夏期特別授業等の塾生募集期の芳しくない状況が年間を通じて影響いたしました。

教室展開については、15教室（大阪府10、滋賀県1、兵庫県1、東京都3）を新規開校するとともに、収益の改善が見込めない1教室（大阪府）を閉鎖、2教室（大阪府）を移転し統廃合しております。これにより、期末の拠点数は214教室（前期末の拠点数202教室）となりました。

売上面については、塾生数が堅調に増加している個別指導部門が牽引するとともに、クラス指導部門においても比較的単価の高い学年の塾生は増加していることから、1人当たり単価は上昇し、売上増加に寄与しました。

損益面については、新規開校の設備投資を積極的に行うとともに今後の事業拡大に向けた人員配置、「個別指導学院フリーステップ」のフランチャイズ展開を強化するための投資を行ったため、費用が増加いたしました。

この結果、売上高は9,809,548千円（前年同期比3.9%増）、セグメント利益（営業利益）は923,118千円（前年同期比13.1%減）となりました。

#### ② 不動産賃貸事業

テナント賃貸は前年と同水準で堅調に推移し、売上高は53,023千円（前年同期比3.0%減）となり、防犯設備の強化、老朽化による不動産修繕により費用が増加したため、セグメント利益（営業利益）は50,639千円（前年同期比11.4%減）となりました。

#### ③ 飲食事業

個人消費低迷や競合店の増加等厳しい状況が続き、売上高は減少傾向にあります。この結果、売上高は169,880千円（前年同期比11.1%減）、セグメント損失（営業損失）は10,483千円（前年同期はセグメント利益（営業利益）9,891千円）となりました。

#### (2) キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、841,232千円となり、前連結会計年度末に比べ、116,777千円減少いたしました。

当連結会計年度における各キャッシュ・フローの状況は次のとおりであります。

##### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は、358,049千円（前連結会計年度比258,887千円の収入減）となりました。これは主に税金等調整前当期純利益493,915千円、減価償却費272,141千円がそれぞれ計上されたものの、未払金の減少額95,719千円、法人税等の支払額321,821千円等によるものであります。

##### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果支出した資金は、439,185千円（前連結会計年度比6,457千円の支出減）となりました。これは主に有形固定資産の取得による支出381,877千円、差入保証金の差入による支出66,680千円等によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果支出した資金は、35,640千円(前連結会計年度比173,402千円の支出減)となりました。これは主に短期借入金の純増加額43,336千円、配当金の支払額52,761千円によるものであります。

## 2 【生産、受注及び販売の状況】

### (1) 生産実績

当社グループは塾生に対して学習指導を行うことを主たる業務としておりますので、該当事項はありません。

### (2) 仕入実績

当連結会計年度における仕入実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)	
	仕入高(千円)	前連結会計年度比 (%)
教育関連事業	437,767	103.1
不動産賃貸事業	—	—
飲食事業	59,898	96.2
合計	497,666	102.2

- (注) 1 セグメント間取引については相殺消去しております。  
2 金額は、仕入価格によっております。  
3 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

### (3) 受注実績

当社グループは塾生に対して学習指導を行うことを主たる業務としておりますので、該当事項はありません。

### (4) 販売実績

当連結会計年度における販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)	
	販売高(千円)	前連結会計年度比 (%)
教育関連事業	9,809,548	103.9
不動産賃貸事業	53,023	97.0
飲食事業	169,880	88.9
合計	10,032,453	103.5

- (注) 1 セグメント間取引については相殺消去しております。  
2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。  
3 主な相手先別の販売実績及び当該販売実績の販売総実績に対する割合については、相手先が塾生及び不特定多数の一般顧客へのものが全体の100分の90以上を占めており、当該割合が100分の10未満のため記載を省略しております。

### 3 【対処すべき課題】

当社グループを取り巻く環境は、少子化の長期的な影響、景況感の不透明さにより大変厳しい状況が続くものと予想されます。学習塾業界では、幼児教育や学童保育等の学習塾に限らない教育分野に進出する企業が増加し、低年齢層からの顧客獲得が激しくなっております。一方で、小学校における英語必修化にみられるように学習指導要領の改訂等の影響により、民間教育企業へのニーズの高まりがみられます。このような状況下において、塾生並びに保護者のニーズにあったサービスを提供することで事業拡大が見込まれます。

こうした中、当社グループでは、教務力を活かした学習指導・進路指導を行い、難関校の合格実績を着実に積み重ねること、ドミナント展開によるブランド力の向上により集客力を強化すること、フランチャイズ展開の強化等による未開校地域への進出等により事業の拡大と収益性の向上を図ることが重要な課題となっております。

### 4 【事業等のリスク】

有価証券報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項には、以下のようなものがあります。

なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において、当社グループが判断したものであります。

#### (1) 社会的環境について

##### ① 学齢人口の減少

当社グループの属する学習塾業界は、少子化の問題に直面しております。少子化は、塾生となりうる児童の絶対数の減少という直接的な影響に留まらず、一部の学校を除いた入学試験の平易化がおり、入塾動機の希薄化・通塾率の低下に繋がる可能性があります。

今後、出生率の低下等により予想以上に少子化が進行した場合、当社グループの業績等に影響を及ぼす可能性があります。

##### ② 近畿圏の人口・経済動向について

当社グループは、大阪府を中心とした近畿圏に学習塾を展開しております。平成26年3月末において、大阪府133教室、滋賀県28教室、兵庫県22教室、京都府16教室、奈良県2教室、東京都13教室を展開しており、特に、大阪府における教室数は当社グループの教室数の62.1%を占めております。したがって、大阪府ないしは近畿圏の人口動向及び経済動向によっては、当社グループの業績等に影響を及ぼす可能性があります。

##### ③ 教育制度等の変更について

学習指導要領の改訂や入試制度の変更など行政による教育制度の変更も度々行われております。当社グループでは、これらの教育制度の変更に対応して学習指導並びに進路指導を行っております。

しかしながら、これらの制度変更により早期の対応が行えなかった場合は、塾生数の減少を招き、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

##### ④ 競合に関する影響について

当社グループでは、小学生から高校卒業生を対象とした学習塾を展開しておりますが、特にターゲットとしている高校受験に向けた学習塾には多くの競合先があります。当社グループでは、難関公立高校への受験合格者数を増加させ、多様化するニーズに対応することで競合先との差別化を図り、塾生数の増加に努めております。

しかしながら、合格実績が低下した場合もしくは競合先の合格実績が相対的に上昇した場合、あるいはニーズに合致した教育サービスが提供できなかった場合には、入塾生及び通塾生の減少等により、当社グループの業績等に影響を及ぼす可能性があります。

##### ⑤ 災害・感染症の発生について

当社グループが教室展開している地域において、大規模な地震等の災害の発生や感染症が発生した場合、当社グループの一部または全部の業務遂行が困難となる可能性があります。

当社グループでは、有事に備えての体制整備に努めておりますが、対応が不十分な場合には当社グループの業績等に影響を及ぼす可能性があります。

## (2) 事業展開について

### ① 人材の確保と教育

当社グループでは、正社員又は契約社員が教員として学習指導及び進路指導を行うとともに、優秀な大学生等を講師として採用することに努め教務にあたっております。当社グループにおいて、人材は重要な経営資源であり、教員及び講師の安定的確保と内部育成は、提供する教育の質に直結するものであります。当社グループでは要員計画に沿った適切な人材を確保するために新卒採用及び中途採用を実施しているほか、多数の臨時講師を確保するための採用活動も実施しております。また、様々な研修を実施し従業員教育に努めることにより、人材の早期育成を図り、能力を公正に評価する人事評価制度や褒賞制度により社内の活性化を図っております。

しかしながら、今後、採用環境の急激な変化等により人材の確保や育成が計画通りに行えない場合や、人材が大量に退職した場合には、新規教室開校計画の遂行に支障が生じる可能性があるとともに、提供する教育の質の低下から塾生のニーズを満たすことが困難になること等により、当社グループの業績等に影響を及ぼす可能性があります。

### ② 業績の季節変動について

当社グループは月々の通常授業の他に、春期講習会、夏期特別授業及び夏期合宿、冬期特別授業を行っております。そのため、講習会及び特別授業の実施月は通常授業のみを実施する月に比べ、売上高は高くなっております。また、塾生数に関しましては、期首より月を追うほどに増加し、11月から12月にかけてピークを迎え、卒業を迎える2月から3月にかけて最も塾生数が少なくなる傾向にあります。したがって、講習会・特別授業を実施しない第1四半期（4月～6月）の収益性が低くなる傾向にある一方、第2四半期（7月～9月）・第3四半期（10月～12月）は収益性が高くなる傾向にあります。

### ③ 塾生の安全管理について

当社グループでは、安全な学習環境の提供に努めております。自家用車による送迎を行いやすい立地を教室展開の基本方針とし、一部の教室にスクールバスを導入、安全管理員を配置し、塾生の出迎えや周辺の監視を行っております。これらに関する費用が増加した場合、または、何らかの事情により当社グループの管理責任が問われる事態が発生し、当社グループの評価の低下に繋がった場合は、当社グループの業績等に影響を及ぼす可能性があります。

### ④ 個人情報の取扱

当社グループでは、相当数の塾生に関わる情報を有しております。社内規程の制定並びに従業員への啓蒙等により、情報漏洩の未然防止を徹底しており、これまで情報の流出等による事故は発生しておりません。

しかしながら、何らかの原因により当社グループの保有する情報が外部に流出した場合は、信用の低下により当社グループの業績等に影響を及ぼす可能性があります。

### ⑤ フランチャイズ事業展開

当社グループでは、フランチャイズ契約を加盟者と締結し、教室運営指導、教室用備品及び広告宣伝物等の販売を行うフランチャイズ事業を展開しております。平成26年3月末日現在、「個別指導学院フリーステップ」を3教室展開しております。フランチャイズ教室は、当社グループと同様のカリキュラム及び教材を使用し、直営教室と同水準の教育サービスを提供、その確認の一環として当社グループで実施するテストと同様のテストを実施しております。

このように当社グループでは、フランチャイズ教室の品質管理に努めておりますが、当社の指導の及ばない範囲で、フランチャイズ加盟者の契約違反等が発生する場合があります。このような事態が生じた場合は、当社グループのブランド名に影響を及ぼし、当社グループの業績等に影響を及ぼす可能性があります。

### (3) 教室展開について

#### ① 教室開校

当社グループでは、積極的に新規教室を開校するとともに、事業譲受を行っております。新規開校及び事業譲受にあたっては、立地条件及び塾生の通塾安全性の確保等の社内における開校方針に従って物件選定を行っております。

しかしながら、希望する物件の確保が計画通りに進まない場合には、開校計画が変更になる可能性があり、当社グループの業績等に影響を及ぼす可能性があります。

#### ② 差入保証金及び建設協力金について

当社グループでは、賃借による出店（教室・店舗）を基本としております。このため、賃貸借契約締結に際し、賃貸人に対して保証金等を差入れるケースがほとんどであります。

平成26年3月期末における差入保証金の残高は813,986千円であり、連結総資産の13.4%を占めております。当社グループでは、賃貸人の信用調査を実施することにより差入保証金を保全するとともに、賃貸借契約解除後は未収入金として回収可能性を勘案し適切に貸倒引当金を計上しておりますが、賃貸人の経営破綻等によって貸倒損失が発生した場合、事業活動及び将来の成長が阻害され、当社グループの業績等に影響を及ぼす可能性があります。

また、新たに建物を建設する場合、賃貸人に対して建設協力金を拠出する場合があります。建設協力金は、賃借料と相殺して返済を受けるものでありますが、何らかの事情により建設協力金の返済が受けられない事態が発生した場合、当社グループの業績等に影響を及ぼす可能性があります。

#### ③ 固定資産の減損損失

当社グループでは、教室の新規開校等に伴い設備投資をしており、教室設備等の有形固定資産を有しております。また、当社グループは、事業譲受を行っており、のれんを計上しております。今後とも教室の新規開校等に伴う有形固定資産並びに事業譲受に伴うのれんを計上する方針であります。

当社グループでは、将来のキャッシュ・フローを生み出す資産に投資を行うとともに、当該資産への投資が将来的に回収できるかどうかを定期的に検討しております。当該資産が将来においてキャッシュ・フローを当初の想定よりも生み出さず、設備投資の金額を回収できない場合には、減損を認識することになります。有形固定資産の設備投資並びにのれんに対して減損損失を認識することになった場合、当社グループの業績等に影響を及ぼす可能性があります。

### (4) 法的規制について

#### ① 主な関連法令について

学習塾運営に関連する主な関連法令は、特定商取引に関する法律、不当景品類及び不当表示防止法、消費者契約法、著作権法、個人情報の保護に関する法律等があります。

当社グループでは、すべての従業員に法令等の遵守の重要性及び必要性について周知するとともに、その実践の徹底に努めております。また、当社グループに関連する規制法令のみならず、すべての一般法令等に関して厳格な遵守の下に事業を運営しております。

しかしながら、関連する法令等に基づいて損害賠償請求等に係る訴訟等を将来において提訴される可能性を否定することは出来ず、当該訴訟等の動向によっては、当社グループに関する評価の低下につながり、当社グループの業績等に影響を及ぼす可能性があります。

#### ② 食品衛生法について

当社子会社(株)アプリスでは、飲食事業を展開しており、飲食店舗は食品衛生法に基づき店舗毎に所轄の保健所より飲食店営業許可を取得しております。店舗では、定期的に衛生チェックを行い、信頼できる取引先から食材の仕入を行っております。

しかしながら、店舗における飲食を理由とする食中毒や食品衛生に関するクレームの発生、社会全般にわたる一般的な衛生問題等が発生した場合、当社グループの業績等に影響を及ぼす可能性があります。



## 5 【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

## 6 【研究開発活動】

該当事項はありません。

## 7 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において、当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

### （1）重要な会計方針及び見積り

当社グループの連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して作成しております。連結財務諸表におきまして、貸倒引当金、賞与引当金等の計上について、過去の実績等を勘案、合理的に判断した上で見積り計算を行っておりますが、見積りに伴う不確実性により、実際の結果とは差異が生じる可能性があります。

### （2）財政状態の分析

#### ① 流動資産

流動資産は、前連結会計年度末から55,007千円（2.5%）増加し、2,237,759千円となりました。これは主として営業未収入金が前連結会計年度に比べ74,418千円、繰延税金資産が同52,746千円、貯蔵品が同11,876千円増加し、現金及び預金が前連結会計年度に比べ105,929千円減少したことによります。

#### ② 固定資産

固定資産は、前連結会計年度末から178,105千円（4.9%）増加し、3,838,598千円となりました。これは主として建物及び構築物が前連結会計年度に比べ165,558千円、土地が同12,107千円増加したことによります。

#### ③ 流動負債

流動負債は、前連結会計年度末から71,502千円（2.8%）減少し、2,487,974千円となりました。これは主として前受金が前連結会計年度に比べ46,188千円、短期借入金が同43,336千円増加し、未払法人税等が前連結会計年度末から63,402千円、未払金が同61,511千円、1年内返済予定の長期借入金が同29,668千円減少したことによります。

#### ④ 固定負債

固定負債は、前連結会計年度末から41,931千円（3.1%）増加し、1,382,430千円となりました。これは主として長期借入金が前連結会計年度に比べ48,860千円、資産除去債務が同21,285千円増加し、リース債務が前連結会計年度に比べ31,389千円減少したことによります。

#### ⑤ 純資産

純資産合計は、前連結会計年度末から262,684千円（13.5%）増加し、2,205,953千円となりました。これは主として利益剰余金が前連結会計年度に比べ257,082千円増加したことによります。

### (3) 経営成績の分析

#### ① 売上高

当連結会計年度における売上高は、前連結会計年度より343,413千円（前連結会計年度比3.5%）増加し、10,032,453千円となりました。事業の種類別セグメントでは、教育関連事業はグループ塾生数の増加並びに新規教室の開校等により、前連結会計年度比366,345千円（前連結会計年度比3.9%）増の9,809,548千円となり、不動産賃貸事業はテナント賃貸が前年と同水準で堅調に推移し、前連結会計年度比1,640千円（前連結会計年度比3.0%）減の53,023千円となり、飲食事業は個人消費低迷や競合店の増加等による厳しい状況が続いたことから前連結会計年度比21,292千円（前連結会計年度比11.1%）減の169,880千円となりました。

#### ② 売上原価

当連結会計年度における売上原価は、前連結会計年度より531,893千円（前連結会計年度比7.2%）増加し、7,888,003千円となりました。これは主として新規教室開校等に伴う人員の拡充により給与等の人件費が前連結会計年度比395,936千円（前連結会計年度比9.0%）増の4,816,923千円、教室の増加に伴い支払家賃が前連結会計年度比68,523千円（前連結会計年度比5.5%）増の1,321,954千円、電気料金の改定等に伴い水道光熱費が前連結会計年度比31,985千円（前連結会計年度比16.1%）増の230,133千円となったことによるものであります。

#### ③ 販売費及び一般管理費

当連結会計年度における販売費及び一般管理費は、前連結会計年度より54,783千円（前連結会計年度比3.3%）減少し、1,626,744千円となりました。これは主として広告戦略の見直しに伴い広告宣伝費が前連結会計年度比33,803千円（前連結会計年度比5.7%）減の556,778千円、設備投資が一巡したことにより備品費が前連結会計年度比32,908千円（前連結会計年度比73.0%）減の12,150千円となったことによるものであります。

#### ④ 営業外収益、営業外費用

当連結会計年度における営業外収益は、前連結会計年度より8,329千円（前連結会計年度比26.3%）減少し、23,310千円となりました。これは主として前連結会計年度に賃貸借契約解約益17,400千円を計上したこと、当連結会計年度に保険解約返戻金14,416千円を計上したことによるものであります。

また、営業外費用は、前連結会計年度より2,943千円（前連結会計年度比8.8%）減少し、30,691千円となりました。これは主として支払利息27,571千円を計上したことによるものであります。

#### ⑤ 特別利益、特別損失

当連結会計年度における特別利益は、299千円となりました。これは、貸倒引当金戻入額299千円を計上したことによるものです。

特別損失は、前連結会計年度より2,536千円（前連結会計年度比17.9%）増加し、16,709千円となりました。これは主として減損損失16,709千円を計上したことによるものであります。

### (4) 資本の財源及び資金の流動性についての分析

#### キャッシュ・フローの状況

キャッシュ・フローの状況については、「第2 事業の状況 1 業績等の概要 (2) キャッシュ・フローの状況」に記載のとおりであります。

### 第3 【設備の状況】

#### 1 【設備投資等の概要】

当社グループは、塾生ならびに保護者の多様なニーズに応え、快適な教育環境の創造と充実のために設備投資を継続的に実施しております。

当連結会計年度の設備投資等（差入保証金を含む）の総額は、453,720千円であり、セグメントごとの設備投資について示すと、次のとおりであります。

##### （1）教育関連事業

当連結会計年度は総額432,572千円の投資を実施しました。

主な内容は、新規開校15教室並びに2教室の統合に伴う内装設備及び差入保証金の支払いであります。

また、重要な設備の除却または売却はありません。

##### （2）不動産賃貸事業

当連結会計年度の投資はありません。

また、重要な設備の除却または売却はありません。

##### （3）飲食事業

当連結会計年度は総額11,642千円の投資を実施しました。

主な内容は、店舗の内装設備の支払いであります。

また、重要な設備の除却または売却はありません。

##### （4）全社共通

当連結会計年度は総額9,506千円の投資を実施しました。

主な内容は、内装設備の取得、ITインフラ整備、社用車取得等の支払であります。

また、重要な設備の除却または売却はありません。

## 2 【主要な設備の状況】

### (1) 提出会社

本部機能を有する事業所ならびに主要教室を記載し、その他事業所は各都府県別に合計を記載しております。

平成26年3月31日現在

事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の 内容	帳簿価額(千円)						従業員数 (名)	
			建物及び 構築物	工具、器 具及び 備品	土地 (面積㎡)	機械装置 及び 運搬具	リース 資産	差入 保証金		合計
本社 (大阪府大阪市北区)	教育関連事業及び 不動産賃貸事業	統括業務施設及び賃貸 不動産	202,565	20,716	471,183 (791.96)	0	7,408	18,733	720,606	122 [35]
開成茶屋町ビル (大阪府大阪市北区)	不動産賃貸事業	賃貸不動産	108,468	2,104	267,892 (226.44)	—	—	50	378,515	9 [2]
旭丘教室 (大阪府豊中市)	教育関連事業	教室	51,977	1,300	25,328 (194.23)	—	—	40	78,646	4 [12]
その他122箇所 (大阪府)	教育関連事業	教室	438,775	64,996	—	805	18,278	502,838	1,025,694	228 [608]
膳所教室 (滋賀県大津市)	教育関連事業	教室	28,964	249	42,895 (428.20)	—	183	—	72,292	3 [7]
その他20箇所 (滋賀県)	教育関連事業	教室	145,300	27,536	—	—	4,145	134,168	311,150	52 [125]
川西中央教室 (兵庫県川西市)	教育関連事業	教室	74,633	2,453	40,903 (488.66)	—	—	—	117,989	2 [5]
その他16箇所 (兵庫県)	教育関連事業	教室及び 保養施設	55,166	5,543	114	—	1,236	49,386	111,448	28 [96]
山科教室 (京都府京都市山科区)	教育関連事業	教室	8,617	598	—	—	—	2,500	11,715	2 [5]
その他16箇所 (京都府)	教育関連事業	教室及び 保養施設	44,375	5,706	632	—	1,112	37,698	89,524	21 [56]
野方教室 (東京都中野区)	教育関連事業	教室	12,566	1,762	—	—	—	4,200	18,528	2 [3]
その他12箇所 (東京都)	教育関連事業	教室	77,802	9,312	—	—	883	42,030	130,030	18 [16]
学園前教室 (奈良県奈良市)	教育関連事業	教室	5,921	1,271	—	—	—	3,528	10,720	1 [2]
その他1箇所 (奈良県)	教育関連事業	教室	1,329	—	—	—	—	3,000	4,329	1 [5]
合計	—	—	1,256,463	143,552	848,950	805	33,247	798,173	3,081,193	493 [977]

(注) 1 金額には消費税等は含まれておりません。

2 現在休止中の設備はありません。

3 従業員数欄の「外書」は、臨時従業員の年間平均雇用人員（1日8時間換算）であります。

4 上記の他、連結会社以外から賃借している主要な設備の内容は、以下のとおりであります。

事業所名	セグメントの名称	設備の内容	賃借物件 (面積㎡)	年間支払賃借料 (千円)
山科教室	教育関連事業	教室	215.27	5,142
野方教室	教育関連事業	教室	328.62	8,400
学園前教室	教育関連事業	教室	96.22	4,032

## (2) 国内子会社

平成26年3月31日現在

会社名	事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の内容	帳簿価額(千円)							従業員数 (名)
				建物及び 構築物	工具、器 具及び備 品	土地 (面積㎡)	機械装置 及び 運搬具	リース 資産	差入 保証金	合計	
㈱アプリス	本社 (大阪府大阪市北区)	教育関連事業	統括業務施設	—	285	—	—	—	1,487	1,772	17 [7]
	梅田校 (大阪府大阪市北区) 他1校	教育関連事業	教室	2,127	428	—	—	—	3,524	6,079	2 [7]
	淡輪ハウス (大阪府泉南郡)	教育関連事業	研修施設	130,051	1,414	12,107 (2080.25)	—	—	—	143,573	0 [2]
	開成豊中ビル (大阪府豊中市)	不動産賃貸事業	賃貸不動産	16,419	—	62,000 (250.85)	—	—	—	78,419	—
	茶屋町炉端 樂兵衛 (大阪府大阪市北区) 他2店舗	飲食事業	飲食店舗	13,278	314	—	552	510	18,316	32,970	6 [17]
	合計	—	—	161,876	2,441	74,107	552	510	23,327	262,815	25 [33]
㈱個夢	大久保教室 (兵庫県明石市) 他4教室	教育関連事業	教室	36,172	4,016	—	—	—	11,184	51,372	8 [32]

- (注) 1 帳簿価額には、消費税等は含まれておりません。  
2 現在休止中の設備はありません。  
3 従業員数欄の〔外書〕は、臨時従業員の年間平均雇用人員(1日8時間換算)であります。  
4 上記の他、連結会社以外から賃借している主要な設備の内容は、以下のとおりであります。

会社名	事業所名	セグメントの名称	設備の内容	賃借物件 (面積㎡)	年間支払賃借料 (千円)
㈱個夢	大久保教室	教育関連事業	教室	329.48	9,608

## 3 【設備の新設、除却等の計画】

## (1) 重要な設備の新設等

平成26年3月31日現在において、新たに確定した重要な設備の新設等の計画はありません。

## (2) 重要な設備の除却等

平成26年3月31日現在において、新たに確定した重要な設備の除却等の計画はありません。

## 第4 【提出会社の状況】

### 1 【株式等の状況】

#### (1) 【株式の総数等】

##### ① 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	15,360,000
計	15,360,000

##### ② 【発行済株式】

種類	事業年度末現在 発行数(株) (平成26年3月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成26年6月26日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	5,864,000	5,876,000	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数は100株であります。
計	5,864,000	5,876,000	—	—

(2) 【新株予約権等の状況】

会社法第236条、第238条、第239条の規定に基づき発行した新株予約権  
(平成19年5月18日臨時株主総会決議)

	事業年度末現在 (平成26年3月31日)	提出日の前月末現在 (平成26年5月31日)
新株予約権の数(個)	106(注)1	—
新株予約権のうち自己新株予約権の数(個)	—	—
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式	—
新株予約権の目的となる株式の数(株)	42,400(注)1	—
新株予約権の行使時の払込金額(円)	1株当たり250(注)2	—
新株予約権の行使期間	自平成21年6月1日 至平成26年5月31日	—
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(円)	発行価格 250(注)2 資本組入額 125	—
新株予約権の行使の条件	(注)3	—
新株予約権の譲渡に関する事項	権利の譲渡、質入その他の処分は認めない。	—
代用払込みに関する事項	—	—
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	—	—

(注)1 新株予約権の数及び新株予約権の目的となる株式の数は、臨時株主総会による新株発行予定数の内取締役会により付与決定した数から、退職又は放棄により権利を喪失した者の数を減じたものであります。

- 2 新株予約権発行後、当社が株式分割、株式併合を行う場合は、次の算式により払込金額を調整し、調整により生ずる1円未満の端数は切り上げるものとする。

$$\text{調整後払込金額} = \text{調整前払込金額} \times \frac{1}{\text{分割・併合の比率}}$$

また、時価を下回る価額で新株式の発行又は自己株式の処分を行う場合(新株予約権の行使の場合を除く)は、次の算式により払込金額を調整し、調整により生ずる1円未満の端数は切り上げるものとする。

$$\text{調整後払込金額} = \text{調整前払込金額} \times \frac{\text{既発行株式数} + \text{新株発行(自己株式の処分)株式数} \times 1 \text{株当たり払込金額}}{\text{既発行株式数} + \text{新株発行(自己株式の処分)株式数}}$$

- 3 当該新株予約権の行使の条件は以下のとおりです。

①各新株予約権の行使にあたっては、一部行使はできないものとする。

②本新株予約権は、会社の株式が東京証券取引所JASDAQ(スタンダード)、又はその他の株式市場(国内外を問わず)に上場した場合に限り行使できるものとする。

③本新株予約権発行時に、会社又はその子会社の取締役、監査役、執行役員又は正社員であった者は行使時にその何れかの地位を有していること。それ以外の者については行使時において、発行時における会社との関係もしくは、会社又は子会社の取締役、監査役、執行役員又は正社員の何れかの地位を有している場合に限り行使することが出来るものとする。

④その他の条件は当社と新株予約権者との間に締結する新株予約権契約に定めるところによる。

- 4 当社は平成24年10月1日付をもって1株につき2株の株式分割を行っております。これにより「新株予約権の目的となる株式の数」、「新株予約権の行使時の払込金額」及び「新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額」が調整されております。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

## (5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成21年6月1日～ 平成21年11月30日 (注)1	120	14,548	1,500	230,108	1,500	170,108
平成21年12月1日 (注)2	2,895,052	2,909,600	—	230,108	—	170,108
平成21年12月1日～ 平成22年5月31日 (注)1	1,600	2,911,200	100	230,208	100	170,208
平成23年4月1日～ 平成24年3月31日 (注)1	8,000	2,919,200	500	230,708	500	170,708
平成24年4月1日～ 平成25年9月30日 (注)1	1,600	2,920,800	100	230,808	100	170,808
平成24年10月1日 (注)3	2,920,800	5,841,600	—	230,808	—	170,808
平成24年10月1日～ 平成25年3月31日 (注)1	3,200	5,844,800	400	231,208	400	171,208
平成25年4月1日～ 平成26年3月31日 (注)1	19,200	5,864,000	2,400	233,608	2,400	173,608

(注) 1 新株予約権(ストック・オプション)の権利行使

2 普通株式1株につき200株の分割を行っております。

3 普通株式1株につき2株の分割を行っております。

4 平成26年4月1日から平成26年5月31日までの間に新株予約権(ストック・オプション)の権利行使により、発行済株式数が12,000株、資本金が1,500千円及び資本準備金が1,500千円増加しております。

## (6) 【所有者別状況】

平成26年3月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)							単元未満 株式の状況 (株)	
	政府及び 地方公共 団体	金融機関	金融商品 取引業者	その他の 法人	外国法人等		個人 その他		計
					個人以外	個人			
株主数 (人)	—	4	1	63	—	3	4,400	4,471	—
所有株式数 (単元)	—	640	1	26,108	—	3	31,885	58,637	300
所有株式数 の割合(%)	—	1.09	0.00	44.52	—	0.00	54.39	100.00	—

(注) 自己株式260株は、「個人その他」に2単元、「単元未満株式の状況」に60株含まれております。



## (7) 【大株主の状況】

平成26年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
株式会社ニューウェーブ	大阪府吹田市佐竹台3丁目12-11	1,526,000	26.02
太田 明弘	大阪府吹田市	1,468,700	25.04
成学社従業員持株会	大阪府大阪市北区中崎西3丁目1-2	467,300	7.96
株式会社ナガセ	東京都武蔵野市吉祥寺南町1丁目29-2	400,000	6.82
太田 貴美子	大阪府吹田市	174,000	2.96
株式会社さなる	東京都新宿区西新宿3丁目2-8	159,000	2.71
学校法人高宮学園	東京都渋谷区代々木1丁目29-1	127,000	2.16
永井 博	大阪府豊中市	83,985	1.43
平野 秀一	大阪府大阪市東淀川区	83,200	1.41
有限会社日本作文指導協会	東京都文京区本郷1丁目30-16-404	58,600	0.99
計	—	4,547,785	77.55

## (8) 【議決権の状況】

## ① 【発行済株式】

平成26年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 200	—	—
完全議決権株式(その他)	普通株式 5,863,500	58,635	—
単元未満株式	普通株式 300	—	—
発行済株式総数	5,864,000	—	—
総株主の議決権	—	58,635	—

## ② 【自己株式等】

平成26年3月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社 成学社	大阪府大阪市北区中崎西 3丁目1-2	200	—	200	0.00
計	—	200	—	200	0.00

(9) 【ストック・オプション制度の内容】

当社は、ストック・オプション制度を採用しております。

新株予約権は、会社法第236条、第238条及び第239条の規定に基づき、平成19年5月18日の臨時株主総会において特別決議されたものであります。

当該制度の内容は次のとおりであります。

決議年月日	平成19年5月18日
付与対象者の区分及び人数	従業員196名
新株予約権の目的となる株式の種類	「(2) 新株予約権等の状況」に記載しております。
株式の数	同上
新株予約権の行使時の払込金額	同上
新株予約権の行使期間	同上
新株予約権の行使の条件	同上
新株予約権の譲渡に関する事項	同上
代用払込みに関する事項	—
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	—

2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 該当事項はありません。

(1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

該当事項はありません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数 (株)	処分価額の総額 (千円)	株式数 (株)	処分価額の総額 (千円)
引き受ける者の募集を行った 取得自己株式	—	—	—	—
消却の処分を行った取得自己株式	—	—	—	—
合併、株式交換、会社分割に係る 移転を行った取得自己株式	—	—	—	—
その他 ( — )	—	—	—	—
保有自己株式数	260	—	260	—

(注) 当期間における保有自己株式には、平成26年6月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式数は、含まれておりません。

### 3 【配当政策】

当社は、長期にわたる安定基盤の確立に努めるとともに、継続的かつ安定的な配当の実施を基本方針としております。

当社は、中間配当と期末配当の年2回剰余金の配当を行うことを基本方針としております。これらの剰余金の配当決定機関は、期末配当については株主総会、中間配当については取締役会であります。

当事業年度の配当につきましては、上記方針に基づき、1株当たり9.20円（うち中間配当4.60円）を実施することを決定しました。この結果、配当性向は20.2%となりました。

内部留保した資金については、将来における株主利益の拡大並びに経営の一層の充実に備え、事業拡大のための設備投資に有効に活用していく所存であります。

なお、当社は会社法第454条第5項の規定に基づき、取締役会の決議によって中間配当を行うことができる旨を定款に定めております。

(注) 基準日が当事業年度に属する剰余金の配当は以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額(千円)	1株当たり配当額(円)
平成25年11月13日 取締役会	26,940	4.60
平成26年6月26日 定時株主総会	26,973	4.60

### 4 【株価の推移】

(1) 【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第24期	第25期	第26期	第27期	第28期
決算年月	平成22年5月	平成23年3月	平成24年3月	平成25年3月	平成26年3月
最高(円)	95,000 ※395	603	630	710 ※760	841
最低(円)	67,500 ※302	322	405	544 ※314	600

(注) 1 最高・最低株価は、平成22年3月31日以前はジャスダック証券取引所におけるものであり、平成22年4月1日から平成22年10月11日までは大阪証券取引所（JASDAQ市場）におけるものであり、平成22年10月12日から平成25年7月15日までは大阪証券取引所JASDAQ（スタンダード）におけるものであり、平成25年7月16日以降は東京証券取引所JASDAQ（スタンダード）におけるものであります。

2 ※は株式分割による権利落後の株価であります。

3 平成22年8月27日開催の定時株主総会において、決算日を3月31日に変更しております。

(2) 【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成25年10月	11月	12月	平成26年1月	2月	3月
最高(円)	821	710	731	793	784	805
最低(円)	681	688	687	722	740	737

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所JASDAQ（スタンダード）におけるものであります。

5 【役員 の 状 況】

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数(株)
代表取締役社長	—	太田 明弘	昭和29年2月4日生	昭和51年4月 関西教育学院入社 昭和57年3月 同社退社 昭和57年7月 開成教育セミナー創業 昭和62年1月 当社設立 同 代表取締役社長(現任) 平成13年6月 (株)レコ 代表取締役 平成15年5月 (有)アドユニット(現(株)アプリス)設立 同 同社代表取締役社長 平成21年12月 (株)個夢 取締役(現任) 平成22年2月 (株)東京フェリックス 代表取締役社長 平成23年8月 (株)アプリス 取締役(現任) 平成23年12月 (株)アイビー 取締役	(注)3	1,468,700
専務取締役	—	永井 博	昭和38年9月6日生	昭和62年4月 関西大倉高校 非常勤講師 昭和63年3月 同校退職 昭和63年4月 当社入社 平成3年7月 当社取締役教務次長 平成12年4月 当社取締役第二事業部長 平成18年5月 当社常務取締役 平成21年12月 (株)個夢 代表取締役社長(現任) 平成25年6月 当社専務取締役(現任)	(注)3	83,985
取締役	管理開発部長	浅生 千春	昭和34年2月26日生	昭和58年5月 関西教育学院入社 昭和61年3月 同社退社 昭和61年4月 明智塾入社 平成3年3月 同社退社 平成3年4月 当社入社 平成4年9月 当社総務部次長 平成15年6月 当社取締役第三事業部長 平成17年8月 (株)アプリス 取締役(現任) 平成18年4月 当社取締役経営企画部長 平成19年4月 当社取締役開発部長 平成24年4月 当社取締役管理開発部長(現任)	(注)3	35,523
取締役	経営企画部長	藤田 正人	昭和36年1月7日生	昭和58年4月 (株)太陽神戸銀行(現(株)三井住友銀行)入行 平成17年10月 当社へ出向 同 株式公開準備室長 平成19年4月 当社社長室長 平成19年8月 当社取締役管理部長 平成20年1月 当社へ転籍 平成21年12月 (株)個夢 取締役(現任) 平成22年2月 (株)東京フェリックス 取締役 平成23年12月 (株)アイビー 取締役 平成24年4月 当社取締役経営企画部長(現任)	(注)3	15,230
取締役	—	平野 秀一	昭和25年6月1日生	昭和46年4月 (株)山田工業入社 昭和46年12月 同社退社 昭和47年1月 (株)昭進入社 昭和48年3月 同社退社 昭和48年4月 (株)前田産業入社 昭和53年3月 同社退社 昭和53年4月 関西教育学院入社 昭和58年3月 同社退社 昭和58年4月 開成教育セミナー入社 昭和62年1月 当社専務取締役 平成22年2月 (株)東京フェリックス 取締役 平成23年12月 (株)アイビー 取締役 平成25年10月 (株)アプリス 取締役(現任) 平成26年4月 当社取締役(現任)	(注)3	83,200

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数(株)
取締役	個別指導部長	檜浦 達也	昭和41年11月19日生	平成5年4月 (株)日本給食入社 平成9年4月 同社退社 平成9年6月 当社入社 平成18年4月 当社個別指導部長 平成20年4月 当社執行役員個別指導部長 平成26年6月 当社取締役個別指導部長(現任)	(注)4	19,420
取締役	—	平井 周	昭和37年10月6日生	平成2年4月 学校法人此花学院勤務 平成3年4月 学校法人此花学院 常務理事 平成22年4月 学校法人此花学院 学院長室室長 平成22年8月 当社取締役(現任)	(注)3	4,000
常勤監査役	—	早川 徹	昭和19年10月1日生	平成10年10月 (株)なみはや銀行 執行役員 平成11年6月 同社 常務執行役員 平成12年11月 ヒューマンタッチ(株)入社 平成14年9月 ヒューマンビジネスサービス(株) 執行役員 平成25年6月 当社常勤監査役(現任) 同 (株)アプリス 非常勤監査役(現任) 同 (株)個夢 非常勤監査役(現任)	(注)5	155
非常勤監査役	—	竹山 直彦	昭和40年12月14日生	平成3年4月 (株)日本総合研究所入社 平成4年8月 同社退社 平成14年10月 弁護士登録 同 権藤健一法律事務所入所 平成18年5月 当社非常勤監査役(現任) 平成20年12月 権藤健一法律事務所退所 平成21年1月 竹山法律事務所開設 平成24年5月 竹山・田上法律事務所開設	(注)6	2,157
非常勤監査役	—	上田 文雄	昭和28年2月9日生	昭和50年4月 大阪国税局入局 平成16年7月 大阪国税局退職 平成16年8月 税理士登録 平成16年9月 上田文雄税理士事務所開設 平成19年8月 当社顧問税理士 平成19年12月 当社非常勤監査役(現任)	(注)6	10,822
計						1,723,192

- (注) 1 取締役平井周は、社外取締役であります。  
2 常勤監査役早川徹及び非常勤監査役上田文雄は、社外監査役であります。  
3 平成25年6月27日開催の定時株主総会の時から2年  
4 平成26年6月26日開催の定時株主総会の時から1年  
5 平成25年6月27日開催の定時株主総会の時から2年  
6 平成23年6月29日開催の定時株主総会の時から4年  
7 当社は平成18年4月より執行役員制度を導入しております。執行役員は、下記のとおりであります。

役名	職名	氏名
執行役員	教育開発部長	浅井 一行

## 6 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

### (1) 【コーポレート・ガバナンスの状況】

コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社では、コーポレート・ガバナンスをより一層充実させることを重要な経営課題のひとつと捉え、経営の執行と監督の分離、法規等の遵守、企業倫理の確立を進めております。これにより、経営の透明性を高め、適正な経営の実現を目指しております。

#### ① 企業統治の体制

##### a. 企業統治の体制の概要

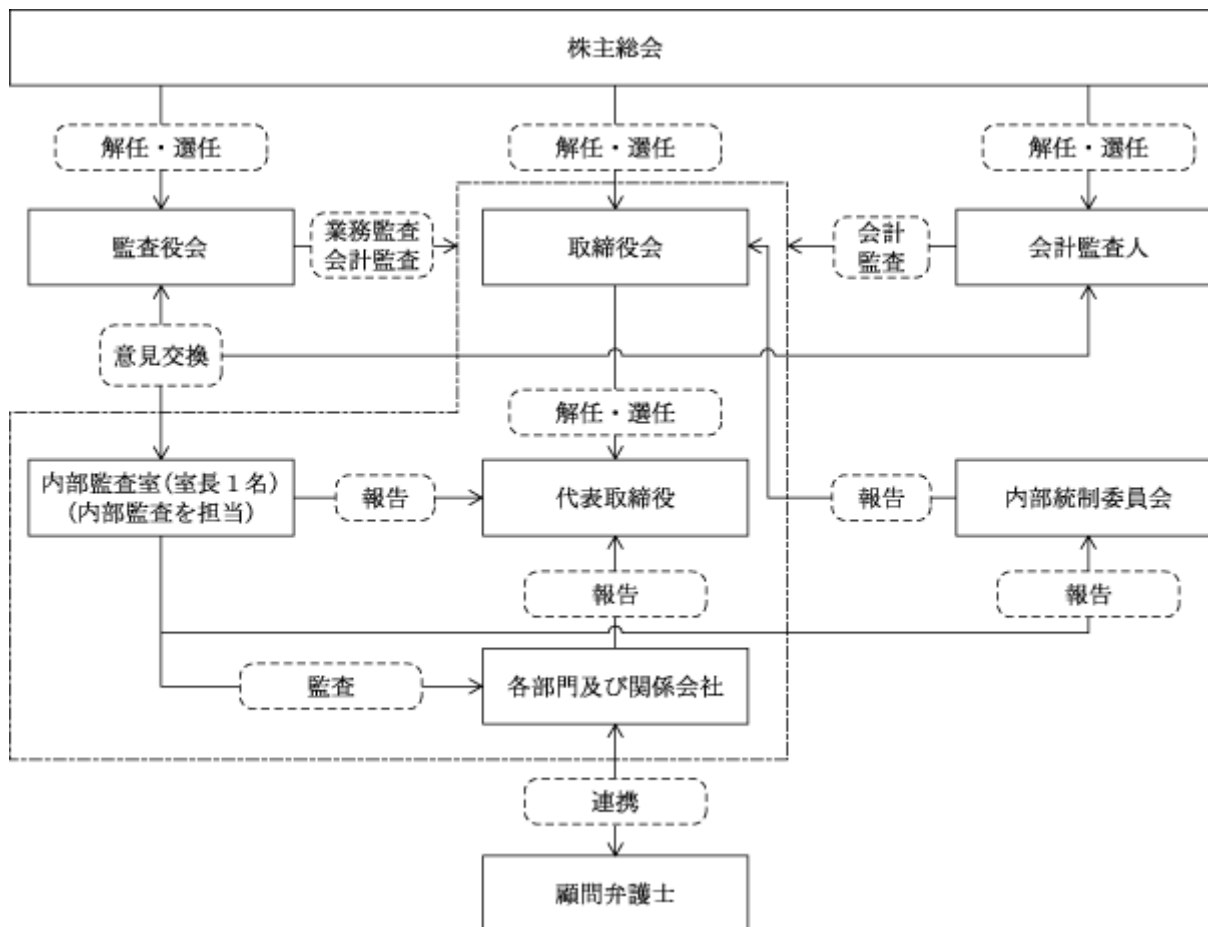
当社の取締役会は取締役7名で構成されており、月1回の定例取締役会のほか、必要に応じて臨時取締役会を開催し、法令等で定められた事項及び経営における重要事項についての決定・報告を行っております。

また、取締役及び常勤監査役並びに課長職以上で構成する統括会議を月1回開催し、経営状況の正確な把握と情報の共有化を図るとともに、経営上の重要事項や課題について討議しております。

当社は監査役会制度を採用しております。経営監督を行う監査役会は、監査役3名(内、非常勤監査役2名)が就任し、月1回の監査役会を開催しております。取締役会には監査役全員が出席し、取締役の職務執行状況につき監査を行っております。

会計監査につきましては、仰星監査法人と監査契約を締結しております。四半期及び期末など定期的に会計監査を受け、経理処理及び財務情報の適正を期しております。

また、法的な判断が必要な場合には、顧問弁護士に随時確認し、アドバイスを受ける体制を採っております。



b. 企業統治の体制を採用する理由

当社では、監査役会設置会社として、社外監査役による中立的視点のもと、取締役の職務執行の監査を行っております。監査役及び監査役会は取締役との会合等を通じて、会社の対処すべき課題、リスク等について意見交換することで経営監督を行っております。また、社外取締役は、取締役会で独立した立場から意見を述べるとともに経営監督機能を強化する役割を担っております。このような体制が効果的かつ効率的な企業統治を図ることができるかと判断し、現体制を採用しております。

c. 内部統制システムの整備の状況

当社では、取締役会で決議した「内部統制システムの基本方針」に基づき、財務報告の信頼性を高めること、法令等の遵守、資産の保全を図ることを目的として内部統制システムを構築しております。また、更なる透明性の高い経営を実現すべく代表取締役を委員長とする内部統制委員会を設置し、内部統制を推進する体制を強化しております。

d. リスク管理体制の整備の状況

当社は、責任ある民間教育機関として継続的に存続・発展を目指す企業として、リスクマネジメントは重要な課題であると考えております。学習塾業界に関連する法令は、特定商取引に関する法律、不当景品類及び不当表示防止法、消費者契約法、著作権法、個人情報保護法等があります。当社は、法令及び定款・諸規程等を遵守し、問題を早期に発見、対処できる体制づくりに努めております。

特に、当社が保有している個人情報に関しては、「個人情報管理規程」を設け、継続的に社員教育を行っております。これに併せて、内部監査室は各部署・教室における情報管理状況を調査し、必要に応じて指導を行っております。

また、塾生の安全確保のため、防災・防犯対策マニュアルを配布し、各教室に周知徹底を図るとともに、年1回の防災訓練を実施しております。

② 内部監査及び監査役監査

当社では、社長直属の独立部署として内部監査室（1名）を設置し、各部門及び関係会社の業務執行の妥当性・適法性・効率性についてチェック、検証を行うため、監査計画に基づく教室及び各部署に対する訪問監査を行っております。監査結果については社長に報告し、業務改善に役立てております。

監査役監査につきましては、月1回の監査役会により監査役間の連携を図っております。また、常勤監査役は、社内の重要な会議に出席するとともに、議事録閲覧や各部署への訪問監査の実施等により、社内業務執行状況の課題や問題点を随時把握する体制を採っております。

監査役と監査法人、内部監査室との連携につきましては、監査法人と随時に意見交換を行い会計監査の報告を受けること等により監査の実効性を高めるとともに、内部監査室と協力して監査を実施することで、社内情報の把握に努めております。

③ 社外取締役及び社外監査役

当社は、意思決定の更なる公正化とコーポレート・ガバナンス強化を図るため社外取締役1名と社外監査役2名を選任しております。社外取締役は中立的立場から経営に関する意思決定に参加し、社外監査役は、経営の意思決定及び職務執行状況を中立的第三者の立場から監視する役割を果たしております。

社外取締役である平井周氏は、当社が寄付を行っている学校法人此花学院の出身ですが、取引の規模、性質に照らして、株主並びに投資者の判断に影響を及ぼすおそれはなく、社外取締役としての独立性に影響を与えるものではないと判断しております。社外監査役である早川徹氏と当社との間には特別な利害関係はありません。社外監査役である上田文雄氏は上田文雄税理士事務所の代表を務めておりますが、当社と上田文雄税理士事務所との間には特別な利害関係はありません。なお、社外取締役及び社外監査役が保有する当社の株式の数は、「5役員の状況」に記載しております。また、社外監査役である早川徹氏を独立役員として指定し、東京証券取引所に届け出ております。

当社は、社外取締役及び社外監査役を選任するための独立性に関する基準又は方針は定めていないものの、選任にあたっては、一般株主と利益相反が生じるおそれのない者を確保するという社外役員の趣旨に鑑み選任しております。

④ 役員の報酬等

a. 提出会社の役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (千円)	報酬等の種類別の総額 (千円)				対象となる 役員の員数 (人)
		基本報酬	ストック オプション	賞与	退職慰労金	
取締役 (社外取締役を除く。)	72,320	65,746	—	—	6,574	6
監査役 (社外監査役を除く。)	1,800	1,800	—	—	—	1
社外役員	11,880	11,400	—	—	480	4

(注) 1 退職慰労金は、当事業年度に計上した役員退職慰労引当金繰入額であります。

2 報酬等の総額及び役員の員数には、当事業年度中に退任致しました社外役員1名を含んでおります。

b. 提出会社の役員ごとの報酬等の総額等

報酬等の総額が1億円以上である者が存在しないため、記載していません。

c. 役員の報酬等の額の決定に関する方針

株主総会にて決定する報酬総額の限度内で、経営内容、経済情勢、社員給与とのバランス等を考慮した上で、取締役会の決議により決定しております。

⑤ 株式の保有状況

a. 投資株式のうち保有目的が純投資以外の目的であるものの銘柄数及び貸借対照表計上額の合計額

9銘柄 16,467千円

b. 保有目的が純投資以外の目的である投資株式の銘柄、株式数、貸借対照表計上額及び保有目的  
(前事業年度)

特定投資株式

銘柄	株式数 (数)	貸借対照表計上額 (千円)	保有目的
㈱ウィザス	5,000	1,710	事業戦略投資のため
㈱早稲田アカデミー	1,500	1,134	事業戦略投資のため
栄光ホールディングス㈱	1,000	820	事業戦略投資のため
㈱阿波銀行	1,000	584	円滑な取引関係を維持するため

(当事業年度)

特定投資株式

銘柄	株式数 (数)	貸借対照表計上額 (千円)	保有目的
㈱ウィザス	5,000	1,400	事業戦略投資のため
㈱早稲田アカデミー	1,500	1,255	事業戦略投資のため
栄光ホールディングス㈱	1,000	860	事業戦略投資のため
㈱阿波銀行	1,000	549	円滑な取引関係を維持するため
㈱リソー教育	200	51	事業戦略投資のため

c. 保有目的が純投資目的である投資株式の前事業年度及び当事業年度における貸借対照表計上額の合計額ならびに当事業年度における受取配当金、売却損益及び評価損益の合計額

該当事項はありません。

⑥ 会計監査の状況

会計監査につきましては、仰星監査法人と監査契約を締結しております。四半期及び期末など定期的に会計監査を受け、経理処理及び財務情報の適正を期しております。当社の会計監査業務を執行した公認会計士（業務執行社員）は高谷晋介、洪誠悟であり、同監査法人に所属しております。また、当社の会計監査業務に係る補助者は、公認会計士5名、その他5名であります。



⑦ 取締役会で決議することができる株主総会決議事項

a. 自己株式取得に関する要件

当社は、自己の株式の取得について、経済情勢の変化に対応して財務政策等の経営諸施策を機動的に遂行することを可能にするため、会社法第165条第2項の規定に基づき、取締役会の決議によって同条第1項に定める市場取引等により自己の株式を取得することができる旨を定款に定めております。

b. 中間配当に関する事項

当社は、株主への安定的な利益還元を行うため、会社法第454条第5項の規定に基づき、取締役会の決議によって中間配当を行うことができる旨を定款に定めております。

⑧ 取締役の定数

当社の取締役は10名以内とする旨を定款で定めております。

⑨ 取締役の選任の決議要件

当社は、取締役の選任の決議は、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨及び累積投票によらない旨を定款に定めております。

⑩ 株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨を定款に定めております。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

(2) 【監査報酬の内容等】

① 【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)
提出会社	23,400	—	23,400	—
連結子会社	—	—	—	—
計	23,400	—	23,400	—

② 【その他重要な報酬の内容】

該当事項はありません。

③ 【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

該当事項はありません。

④ 【監査報酬の決定方針】

当社の監査公認会計士等に対する監査報酬の決定方針としましては、監査日数、監査業務の内容を総合的に勘案した上で、決定することとしております。

## 第5【経理の状況】

### 1 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号。以下「連結財務諸表規則」という。)に基づいて作成しております。

なお、当連結会計年度(平成25年4月1日から平成26年3月31日まで)の連結財務諸表に含まれる比較情報については、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」(平成24年9月21日内閣府令第61号)附則第3条第2項により、改正前の連結財務諸表規則に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。)に基づいて作成しております。

なお、当事業年度(平成25年4月1日から平成26年3月31日まで)の財務諸表に含まれる比較情報については、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」(平成24年9月21日内閣府令第61号)附則第2条第2項により、改正前の財務諸表等規則に基づいて作成しております。

### 2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(平成25年4月1日から平成26年3月31日まで)の連結財務諸表及び事業年度(平成25年4月1日から平成26年3月31日まで)の財務諸表について、仰星監査法人により監査を受けております。

### 3 連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握し、会計基準等の変更等についての的確に対応することができる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入し、同法人の行う研修等に参加しております。

1 【連結財務諸表等】

(1) 【連結財務諸表】

① 【連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当連結会計年度 (平成26年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,058,976	953,046
営業未収入金	809,490	883,909
商品	60,641	57,434
貯蔵品	11,002	22,879
繰延税金資産	106,022	158,769
その他	172,999	192,103
貸倒引当金	△36,380	△30,382
流動資産合計	2,182,752	2,237,759
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	※1 2,062,844	※1 2,371,004
減価償却累計額	△774,673	△917,274
建物及び構築物(純額)	1,288,170	1,453,729
機械装置及び運搬具	7,429	9,622
減価償却累計額	△7,429	△8,264
機械装置及び運搬具(純額)	0	1,357
土地	※1 910,950	※1 923,058
リース資産	107,438	92,514
減価償却累計額	△45,256	△58,756
リース資産(純額)	62,181	33,757
建設仮勘定	-	6,539
その他	357,705	404,032
減価償却累計額	△207,254	△257,303
その他(純額)	150,450	146,728
有形固定資産合計	2,411,753	2,565,171
無形固定資産		
のれん	32,181	43,513
リース資産	66,616	40,172
その他	33,868	52,180
無形固定資産合計	132,666	135,866
投資その他の資産		
投資有価証券	28,322	29,941
長期貸付金	97,597	81,613
繰延税金資産	91,157	101,671
差入保証金	807,202	813,986
その他	104,593	110,346
貸倒引当金	△12,799	-
投資その他の資産合計	1,116,072	1,137,559
固定資産合計	3,660,492	3,838,598
資産合計	5,843,244	6,076,357

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当連結会計年度 (平成26年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	140,751	137,889
短期借入金	※1 410,000	※1 453,336
1年内返済予定の長期借入金	※1 381,289	※1 351,621
リース債務	49,601	38,425
未払法人税等	182,305	118,903
前受金	566,370	612,558
賞与引当金	91,529	94,368
未払金	492,394	430,882
その他	245,235	249,988
流動負債合計	2,559,476	2,487,974
固定負債		
長期借入金	※1 967,461	※1 1,016,321
リース債務	71,424	40,034
退職給付引当金	16,829	-
役員退職慰労引当金	13,061	19,702
退職給付に係る負債	-	12,195
繰延税金負債	-	1,827
資産除去債務	247,942	269,227
その他	23,781	23,121
固定負債合計	1,340,499	1,382,430
負債合計	3,899,975	3,870,404
純資産の部		
株主資本		
資本金	231,208	233,608
資本剰余金	171,208	173,608
利益剰余金	1,539,959	1,797,042
自己株式	△52	△52
株主資本合計	1,942,324	2,204,206
その他の包括利益累計額		
その他の有価証券評価差額金	944	1,746
その他の包括利益累計額合計	944	1,746
純資産合計	1,943,268	2,205,953
負債純資産合計	5,843,244	6,076,357

## ②【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

## 【連結損益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自平成24年4月1日 至平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自平成25年4月1日 至平成26年3月31日)
売上高	9,689,040	10,032,453
売上原価	7,356,109	7,888,003
売上総利益	2,332,930	2,144,449
販売費及び一般管理費	※1 1,681,528	※1 1,626,744
営業利益	651,402	517,705
営業外収益		
受取利息	1,970	1,780
受取配当金	141	244
祝金受取額	5,850	400
自販機収入	1,684	1,600
賃貸借契約解約益	17,400	-
保険解約返戻金	-	14,416
その他	4,593	4,869
営業外収益合計	31,640	23,310
営業外費用		
支払利息	28,986	27,571
解決金	3,832	-
その他	815	3,120
営業外費用合計	33,634	30,691
経常利益	649,407	510,324
特別利益		
貸倒引当金戻入額	-	299
特別利益合計	-	299
特別損失		
固定資産除却損	※2 3,437	-
減損損失	※3 10,735	※3 16,709
特別損失合計	14,173	16,709
税金等調整前当期純利益	635,234	493,915
法人税、住民税及び事業税	312,604	246,346
法人税等調整額	△4,964	△61,877
法人税等合計	307,640	184,469
当期純利益	327,594	309,446

【連結包括利益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月 31日)	当連結会計年度 (自 平成25年 4月 1日 至 平成26年 3月 31日)
当期純利益	327,594	309,446
その他の包括利益		
其他有価証券評価差額金	1,831	802
その他の包括利益合計	※1 1,831	※1 802
包括利益	329,425	310,248
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	329,425	310,248
少数株主に係る包括利益	-	-

③【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度(自 平成24年 4 月 1 日 至 平成25年 3 月31日)

(単位：千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	230,708	170,708	1,262,879	△52	1,664,243
当期変動額					
新株の発行 (新株予約権の行使)	500	500			1,000
剰余金の配当			△50,513		△50,513
当期純利益			327,594		327,594
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)					
当期変動額合計	500	500	277,080	—	278,080
当期末残高	231,208	171,208	1,539,959	△52	1,942,324

	その他の包括利益累計額		純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	その他の包括利益 累計額合計	
当期首残高	△886	△886	1,663,356
当期変動額			
新株の発行 (新株予約権の行使)			1,000
剰余金の配当			△50,513
当期純利益			327,594
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)	1,831	1,831	1,831
当期変動額合計	1,831	1,831	279,911
当期末残高	944	944	1,943,268

当連結会計年度(自 平成25年 4月 1日 至 平成26年 3月31日)

(単位：千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	231,208	171,208	1,539,959	△52	1,942,324
当期変動額					
新株の発行 (新株予約権の行使)	2,400	2,400			4,800
剰余金の配当			△52,363		△52,363
当期純利益			309,446		309,446
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)					
当期変動額合計	2,400	2,400	257,082	—	261,882
当期末残高	233,608	173,608	1,797,042	△52	2,204,206

	その他の包括利益累計額		純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	その他の包括利益 累計額合計	
当期首残高	944	944	1,943,268
当期変動額			
新株の発行 (新株予約権の行使)			4,800
剰余金の配当			△52,363
当期純利益			309,446
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)	802	802	802
当期変動額合計	802	802	262,684
当期末残高	1,746	1,746	2,205,953



## ④【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自平成24年4月1日 至平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自平成25年4月1日 至平成26年3月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前当期純利益	635,234	493,915
減価償却費	267,829	272,141
減損損失	10,735	16,709
のれん償却額	14,125	10,944
長期前払費用償却額	11,442	13,666
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△1,135	△18,797
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	-	△4,633
賞与引当金の増減額 (△は減少)	3,298	2,839
役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)	7,585	6,641
保険解約返戻金	-	△14,416
支払利息	28,986	27,571
売上債権の増減額 (△は増加)	△178,510	△74,418
仕入債務の増減額 (△は減少)	11,887	△2,861
前受金の増減額 (△は減少)	33,989	46,188
未払金の増減額 (△は減少)	18,267	△95,719
未払費用の増減額 (△は減少)	12,759	12,674
その他	49,568	14,921
小計	926,064	707,365
利息及び配当金の受取額	645	673
利息の支払額	△28,954	△28,167
法人税等の支払額	△280,819	△321,821
営業活動によるキャッシュ・フロー	616,936	358,049
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	△18,048	△10,847
保険解約による収入	-	14,416
有形固定資産の取得による支出	△335,893	△381,877
無形固定資産の取得による支出	△5,535	△12,382
資産除去債務の履行による支出	△12,830	△7,269
子会社株式の取得による支出	-	△1,000
事業譲受による支出	-	△22,340
長期貸付けによる支出	△23,000	-
差入保証金の差入による支出	△71,656	△66,680
差入保証金の回収による収入	11,839	55,079
その他の支出	△2,255	△9,479
その他の収入	11,735	3,194
投資活動によるキャッシュ・フロー	△445,643	△439,185
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	100,000	43,336
長期借入れによる収入	225,000	450,000
長期借入金の返済による支出	△424,316	△430,808
配当金の支払額	△51,135	△52,761
その他の支出	△59,592	△50,207
その他の収入	1,000	4,800
財務活動によるキャッシュ・フロー	△209,043	△35,640
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△37,750	△116,777
現金及び現金同等物の期首残高	995,760	958,009
現金及び現金同等物の期末残高	※1 958,009	※1 841,232

## 【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

### 1 連結の範囲に関する事項

すべての子会社を連結しております。

連結子会社の数 2社

連結子会社の名称

(株)アプリス

(株)個夢

(連結の範囲の変更)

平成25年10月1日付で、連結子会社でありました株式会社東京フェリックスは、当社を存続会社とする吸収合併により消滅しております。また、平成25年10月1日付で、当社の連結子会社でありました株式会社アイビーは、当社の同じく連結子会社である株式会社アプリスを存続会社とする吸収合併により消滅しております。この結果、第3四半期連結会計期間より、上記消滅会社2社を連結の範囲から除外しております。

### 2 持分法の適用に関する事項

非連結子会社及び関連会社はないため、持分法の適用はありません。

### 3 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社の決算日は、連結決算日と一致しております。

### 4 会計処理基準に関する事項

#### (1)重要な資産の評価基準及び評価方法

##### ①有価証券

その他有価証券

時価のあるもの

連結決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は、全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)を採用しております。

時価のないもの

移動平均法による原価法を採用しております。

##### ②たな卸資産

###### a 教材

移動平均法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)を採用しております。

###### b 食材

先入先出法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)を採用しております。

#### (2)重要な減価償却資産の減価償却の方法

##### ①有形固定資産(リース資産を除く)

定率法を採用しております。ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備を除く)については定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物及び構築物 3年～39年

機械装置及び運搬具 2年～4年

その他 3年～17年

##### ②無形固定資産(リース資産を除く)

定額法を採用しております。

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法を採用しております。

### ③リース資産

所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産

自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法を採用しております。

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

### (3)重要な引当金の計上基準

#### ①貸倒引当金

債権の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

#### ②賞与引当金

従業員に対して支給する賞与の支払に備えるため、賞与支給見込額のうち当連結会計年度の負担額を計上しております。

#### ③役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支出に備えるため、役員退職金規程に基づく期末要支給額を計上しております。

### (4)退職給付に係る会計処理の方法

当社及び連結子会社は、平成14年4月1日より確定拠出年金制度を採用しております。本制度移行においては退職一時金を確定拠出年金へ移管していないため、移行時の在籍従業員に対する退職一時金の退職給付に係る負債を計上しております。なお、退職給付債務は本制度移行前の退職一時金制度に基づき、簡便法により算定したものであります。

### (5)のれんの償却方法及び償却期間

#### ①償却方法

定額法を採用しております。

#### ②償却期間

5～8年

### (6)連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

### (7)その他連結財務諸表作成のための重要な事項

消費税等の会計処理

税抜方式を採用しております。

### (表示方法の変更)

(連結貸借対照表関係)

前連結会計年度において表示していた「退職給付引当金」は「退職給付に関する会計基準」(企業会計基準第26号 平成24年5月17日。以下「退職給付会計基準」という。)及び「退職給付に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第25号 平成24年5月17日。)の適用に伴い、当連結会計年度より、「退職給付に係る負債」として表示しております。

退職給付会計基準等の適用については、退職給付会計基準第37項に定める経過的な取扱いに従っており、表示の組替えは行っておりません。

(連結貸借対照表関係)

※1 担保資産及び担保付債務

担保に供している資産は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当連結会計年度 (平成26年3月31日)
建物及び構築物	448,020千円	529,468千円
土地	910,202 "	922,310 "
計	1,358,222千円	1,451,779千円

担保付債務は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当連結会計年度 (平成26年3月31日)
短期借入金	410,000千円	453,336千円
1年内返済予定の長期借入金	352,689 "	343,471 "
長期借入金	959,311 "	1,016,321 "
計	1,722,000千円	1,813,128千円

なお、上記担保資産の根抵当権極度額は1,370,000千円であります。

2 当座貸越契約

当社グループは、運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行と当座貸越契約を締結しております。当該契約に基づく当連結会計年度末の借入未実行残高は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当連結会計年度 (平成26年3月31日)
当座貸越限度額	610,000千円	910,000千円
借入実行残高	410,000 "	453,336 "
差引額	200,000千円	456,664千円

(連結損益計算書関係)

※1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自平成24年4月1日 至平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自平成25年4月1日 至平成26年3月31日)
広告宣伝費	590,581千円	556,778千円
給与手当	257,102 "	260,282 "
賞与引当金繰入額	14,916 "	15,463 "
貸倒引当金繰入額	23,147 "	14,043 "
退職給付費用	4,192 "	4,301 "
役員退職慰労引当金繰入額	7,585 "	7,601 "

※2 固定資産除却損の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自平成24年4月1日 至平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自平成25年4月1日 至平成26年3月31日)
機械装置及び運搬具	1,657千円	— 千円
その他	1,780 "	— "
計	3,437千円	— 千円

### ※3 減損損失

当社グループは以下の資産グループについて減損損失を計上しました。

前連結会計年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

用途	種類	場所	減損損失の金額 (千円)
教室	建物及び構築物他	大阪市鶴見区他3教室	7,722
	建物及び構築物他	滋賀県彦根市	1,519
	建物及び構築物	兵庫県加古川市	1,493

(経緯)

上記の資産グループについては、当連結会計年度において業績の低迷などにより収益性が悪化している、又は閉鎖、移転が決まっているため帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しました。

(主な減損損失の内訳)

建物及び構築物	9,738千円
その他	996 〃
計	10,735千円

(グルーピングの方法)

事業セグメント別を基本とし、教育関連事業は教室ごとに、不動産賃貸事業及び飲食事業、将来の使用が見込まれない遊休資産は個々の物件単位でグルーピングをしております。

(回収可能価額の算定方法等)

資産グループの回収可能価額は使用価値により測定しておりますが、将来キャッシュ・フローに基づく使用価値がマイナスであるものは回収可能価額を零として評価しております。

当連結会計年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

用途	種類	場所	減損損失の金額 (千円)
教室	建物及び構築物他	大阪府箕面市他4教室	7,413
	建物及び構築物他	京都市山科区	5,940
	建物及び構築物他	滋賀県大津市	3,254
	建物及び構築物	兵庫県川西市	101

(経緯)

上記の資産グループについては、当連結会計年度において業績の低迷などにより収益性が悪化している、又は閉鎖、移転が決まっているため帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しました。

(主な減損損失の内訳)

建物及び構築物	11,571千円
その他	5,137 〃
計	16,709千円

(グルーピングの方法)

事業セグメント別を基本とし、教育関連事業は教室ごとに、不動産賃貸事業及び飲食事業、将来の使用が見込まれない遊休資産は個々の物件単位でグルーピングをしております。

(回収可能価額の算定方法等)

資産グループの回収可能価額は使用価値により測定しておりますが、将来キャッシュ・フローに基づく使用価値がマイナスであるものは回収可能価額を零として評価しております。

(連結包括利益計算書関係)

※1 その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

	前連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
その他有価証券評価差額金		
当期発生額	2,907千円	1,245千円
組替調整額	— 〃	— 〃
税効果調整前	2,907千円	1,245千円
税効果額	△1,075 〃	△443 〃
その他有価証券評価差額金	1,831千円	802千円
その他の包括利益合計	1,831千円	802千円

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	2,919,200	2,925,600	—	5,844,800

(変動事由の概要)

新株の発行(新株予約権の行使)

  ストック・オプションの権利行使による増加 4,800株

  株式の分割による増加 2,920,800株

2 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	130	130	—	260

(変動事由の概要)

株式の分割による増加 130株

3 配当に関する事項

① 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額	1株当たり配当額	基準日	効力発生日
平成24年6月27日 定時株主総会	普通株式	25,104千円	8.60円	平成24年3月31日	平成24年6月28日
平成24年11月13日 取締役会	普通株式	25,409千円	8.70円	平成24年9月30日	平成24年12月10日

② 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額	配当の原資	1株当たり配当額	基準日	効力発生日
平成25年6月27日 定時株主総会	普通株式	25,423千円	利益剰余金	4.35円	平成25年3月31日	平成25年6月28日

当連結会計年度（自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日）

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式（株）	5,844,800	19,200	—	5,864,000

（変動事由の概要）

新株の発行（新株予約権の行使）

ストック・オプションの権利行使による増加 19,200株

2 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式（株）	260	—	—	260

3 配当に関する事項

① 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額	1株当たり配当額	基準日	効力発生日
平成25年6月27日 定時株主総会	普通株式	25,423千円	4.35円	平成25年3月31日	平成25年6月28日
平成25年11月13日 取締役会	普通株式	26,940千円	4.60円	平成25年9月30日	平成25年12月10日

② 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額	配当の原資	1株当たり 配当額	基準日	効力発生日
平成26年6月26日 定時株主総会	普通株式	26,973千円	利益剰余金	4.60円	平成26年3月31日	平成26年6月27日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

- ※1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
現金及び預金	1,058,976千円	953,046千円
預入期間3か月超の定期預金	△100,966 "	△111,814 "
現金及び現金同等物	958,009千円	841,232千円

## 2 重要な非資金取引の内容

ファイナンス・リース取引に係る資産及び債務の額は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
ファイナンス・リース取引に係る 資産の額	20,608千円	7,278千円
ファイナンス・リース取引に係る 債務の額	21,652 "	7,641 "

(リース取引関係)

ファイナンス・リース取引 (借主側)

所有権移転ファイナンス・リース取引

### (1) リース資産の内容

有形固定資産

教育関連事業における工具、器具及び備品であります。

無形固定資産

教育関連事業におけるソフトウェアであります。

### (2) リース資産の減価償却の方法

連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項「4 会計処理基準に関する事項 (2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。

所有権移転外ファイナンス・リース取引

### (1) リース資産の内容

有形固定資産

教育関連事業における機械装置及び運搬具等であります。

### (2) リース資産の減価償却の方法

連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項「4 会計処理基準に関する事項 (2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。



(金融商品関係)

1 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、設備投資計画に基づき必要な資金を銀行借入により調達しております。資金運用については、預金その他の安全性の高い金融商品に限定して運用しております。デリバティブ取引は、借入金の金利変動リスクを軽減する目的に限って利用する可能性があります。投機的な取引は行わない方針であります。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である営業未収入金は、顧客の信用リスクに晒されております。

投資有価証券は、主に投資信託及び業務上の関係を有する株式であり、市場価格の変動リスクに晒されております。差入保証金は主として教室の賃貸借契約に伴うものであり、貸主の信用リスクに晒されております。

営業債務である未払金は、1年以内の支払期日であります。借入金は、営業取引及び設備投資に係る資金調達であり、その殆んどは固定金利であるため、金利の変動リスクはありません。また、変動金利の借入金に関しましても、金利の変動リスクは僅少であります。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

①信用リスク(取引先の契約不履行等に係るリスク)の管理

当社グループは、営業債権である営業未収入金、差入保証金については、経営企画部において、取引先ごとの期日管理及び残高管理を行うとともに、主な取引先の信用状況を定期的にモニタリングし、財務状況の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。

②市場リスク(為替や金利等の変動リスク)の管理

投資有価証券については、月単位で時価や発行体の財務状況等を把握し、保有状況を継続的に見直しております。

③資金調達に係る流動性リスク(支払期日に支払いを実行できなくなるリスク)の管理

未払金、短期借入金及び長期借入金については、経営企画部において、月単位で各社毎に資金繰計画を作成・更新するとともに、手元流動性の維持等により流動性リスクを管理しております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価額がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件を採用することにより当該価額が変動することもあります。

2 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含まれておりません。(注)2参照)

前連結会計年度(平成25年3月31日)

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価 (千円)	差額 (千円)
(1) 現金及び預金	1,058,976	1,058,976	—
(2) 営業未収入金※ <sup>1</sup>	809,490		
貸倒引当金	△36,380		
	773,110	773,110	—
(3) 投資有価証券			
その他有価証券	16,470	16,470	—
(4) 差入保証金	807,202	743,273	△63,929
資産計	2,655,760	2,591,830	△63,929
(1) 短期借入金	410,000	410,000	—
(2) 未払金	492,394	492,394	—
(3) 長期借入金※ <sup>2</sup>	1,348,750	1,347,242	△1,507
負債計	2,251,144	2,249,637	△1,507

※<sup>1</sup> 営業未収入金に対して計上している貸倒引当金を控除しております。

※<sup>2</sup> 1年内返済予定の長期借入金を含めて表示しております。

当連結会計年度(平成26年3月31日)

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価 (千円)	差額 (千円)
(1) 現金及び預金	953,046	953,046	—
(2) 営業未収入金※ <sup>1</sup>	883,909		
貸倒引当金	△30,382		
	853,526	853,526	—
(3) 投資有価証券			
その他有価証券	17,589	17,589	—
(4) 差入保証金	813,986	755,709	△58,276
資産計	2,638,149	2,579,872	△58,276
(1) 短期借入金	453,336	453,336	—
(2) 未払金	430,882	430,882	—
(3) 長期借入金※ <sup>2</sup>	1,367,942	1,365,196	△2,745
負債計	2,252,160	2,249,415	△2,745

※<sup>1</sup> 営業未収入金に対して計上している貸倒引当金を控除しております。

※<sup>2</sup> 1年内返済予定の長期借入金を含めて表示しております。

(注) 1 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券に関する事項

資産

(1) 現金及び預金、(2) 営業未収入金

これらはすべて短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(3) 投資有価証券

投資有価証券の時価については、株式については取引所の価格によっており、投資信託については公表されている基準価格によっております。

(4) 差入保証金

差入保証金の時価については、将来キャッシュ・フローを残存期間に対応する国債の利回り等適切な指標による利率で割り引いた現在価値により算定しております。

負債

(1) 短期借入金、(2) 未払金

これらはすべて短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(3) 長期借入金

長期借入金の時価については、変動金利によるものは、短期間で市場金利を反映することから、時価は帳簿価額と近似していると考えられるため、当該帳簿価額によっております。固定金利によるものは、元利金の合計額を新規に同様の借入を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。

(注) 2 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品の連結貸借対照表計上額

(単位：千円)

区分	平成25年3月31日	平成26年3月31日
非上場株式	11,851	12,351

上記については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「(3) 有価証券及び投資有価証券」には含めておりません。

(注) 3 金銭債権の連結決算日後の償還予定額

前連結会計年度（平成25年3月31日）

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)
現金及び預金	1,058,976	—	—	—	—	—
営業未収入金	773,110	—	—	—	—	—
差入保証金	101,826	22,033	14,488	25,057	28,975	614,822
合計	1,933,913	22,033	14,488	25,057	28,975	614,822

当連結会計年度（平成26年3月31日）

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)
現金及び預金	953,046	—	—	—	—	—
営業未収入金	853,526	—	—	—	—	—
差入保証金	124,105	14,488	21,020	29,414	37,116	587,841
合計	1,930,678	14,488	21,020	29,414	37,116	587,841

(注) 4 長期借入金及びその他有価証券の連結決算日後の返済予定額

前連結会計年度（平成25年3月31日）

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)
短期借入金	410,000	—	—	—	—	—
長期借入金	381,289	270,291	188,511	117,334	66,395	324,930
合計	791,289	270,291	188,511	117,334	66,395	324,930

当連結会計年度（平成26年3月31日）

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)
短期借入金	453,336	—	—	—	—	—
長期借入金	351,621	271,507	205,836	150,671	100,553	287,754
合計	804,957	271,507	205,836	150,671	100,553	287,754

(有価証券関係)

その他有価証券

前連結会計年度(平成25年3月31日)

区分	連結貸借対照表計上額 (千円)	取得原価 (千円)	差額 (千円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの			
① 株式	2,530	1,361	1,168
② 債券	—	—	—
③ その他	5,730	4,578	1,152
小計	8,260	5,939	2,321
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの			
① 株式	1,718	2,202	△484
② 債券	—	—	—
③ その他	6,492	6,862	△370
小計	8,210	9,064	△854
合計	16,470	15,004	1,466

(注) 非上場株式（連結貸借対照表計上額11,851千円）については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

当連結会計年度(平成26年3月31日)

区分	連結貸借対照表計上額 (千円)	取得原価 (千円)	差額 (千円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの			
① 株式	2,260	1,361	898
② 債券	—	—	—
③ その他	6,786	4,547	2,239
小計	9,046	5,908	3,138
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの			
① 株式	1,855	2,272	△416
② 債券	—	—	—
③ その他	6,687	6,696	△9
小計	8,542	8,968	△425
合計	17,589	14,877	2,712

(注) 非上場株式(連結貸借対照表計上額12,351千円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

(退職給付関係)

前連結会計年度(自平成24年4月1日至平成25年3月31日)

1 採用している退職給付制度の概要

平成14年3月31日までの期間については退職一時金制度を採用しており、平成14年4月1日以降の期間については、確定拠出年金制度を採用しております。本制度移行においては退職一時金を確定拠出年金へ移管していないため、移行時の在籍従業員に対する退職一時金の退職給付に係る負債を計上しております。

なお、退職給付債務は本制度移行前の退職一時金制度に基づき、簡便法により算定したものであります。

2 退職給付債務に関する事項

退職給付債務の額は、次のとおりであります。

退職給付債務	16,829千円
退職給付引当金	16,829千円

3 退職給付費用に関する事項

退職給付費用の金額は、次のとおりであります。

確定拠出年金への掛金支払額	21,991千円
退職給付費用	21,991千円

4 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項

当社は簡便法を採用しておりますので、割引率等については該当ありません。

当連結会計年度（自平成25年4月1日至平成26年3月31日）

1 採用している退職給付制度の概要

平成14年3月31日までの期間については退職一時金制度を採用しており、平成14年4月1日以降の期間については、確定拠出年金制度を採用しております。本制度移行においては退職一時金を確定拠出年金へ移管していないため、移行時の在籍従業員に対する退職一時金の退職給付に係る負債を計上しております。

なお、退職給付債務は本制度移行前の退職一時金制度に基づき、簡便法により算定したものであります。

2 確定給付制度

(1) 簡便法を適用した制度の、退職給付に係る負債の期首残高と期末残高の調整表

退職給付に係る負債の期首残高	16,829千円
退職給付の支払額	△4,633 〃
退職給付に係る負債の期末残高	12,195千円

(2) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債及び退職給付に係る資産の調整表

非積立型制度の退職給付債務	12,195千円
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	12,195千円
退職給付に係る負債	12,195千円
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	12,195千円

3 確定拠出制度

確定拠出年金への掛金支払額	25,441千円
---------------	----------

(ストック・オプション等関係)

- 1 スtock・オプションにかかる費用計上額及び科目名  
該当事項はありません。
  
- 2 スtock・オプションの内容、規模及びその変動状況
  - (1) スtock・オプションの内容

会社名	提出会社
決議年月日	平成19年5月18日
付与対象者の区分及び人数	従業員 196名
株式の種類及び付与数	普通株式 156,800株 (注) 1, 2
付与日	平成19年6月1日
権利確定条件	・会社の株式がジャスダック証券取引所、東京証券取引所又はその他の株式市場(国内外を問わず)に上場していること。 ・付与日(平成19年6月1日)以降、権利確定日(平成21年6月1日)まで会社又はその子会社の取締役、監査役、執行役員又は正社員の何れかの地位を有していること。それ以外の者については行使時において、発行時における会社との関係もしくは、会社又は子会社の取締役、監査役、執行役員又は正社員の何れかの地位を有している場合に限り行使することができる。
対象勤務期間	対象勤務期間の定めはありません。
権利行使期間	平成21年6月1日～平成26年5月31日

(注) 1 平成21年12月1日をもって普通株式1株から200株の株式分割を行っており、分割後の株式数に換算しております。

2 平成24年10月1日をもって普通株式1株から2株の株式分割を行っており、分割後の株式数に換算しております。

## (2) ストック・オプションの規模及びその変動状況

当連結会計年度（平成26年3月31日）において存在したストック・オプションを対象とし、ストック・オプションの数については、株式数に換算して記載しております。

### ① ストック・オプションの数

会社名	提出会社
決議年月日	平成19年5月18日
権利確定前 (株)	
前連結会計年度末	—
付与	—
失効	—
権利確定	—
未確定残	—
権利確定後 (株)	
前連結会計年度末	62,400
権利確定	—
権利行使	19,200
失効	800
未行使残	42,400

### ② 単価情報

会社名	提出会社
決議年月日	平成19年5月18日
権利行使価格 (円)	250
行使時平均株価 (円)	719
付与日における公正な評価単価(円)	—

(注) 1 ストック・オプションの数につきましては、平成19年6月1日付株式分割及び平成21年12月1日付株式分割による分割後株式数に換算しており、権利行使価格につきましては、分割による調整後の1株当たりの価格を記載しております。

2 平成19年6月1日に付与されたストック・オプションの数につきましては、平成24年10月1日付株式分割による分割後株式数に換算しており、権利行使価格につきましては、分割による調整後の1株当たりの価格を記載しております。

### 3 ストック・オプションの単位当たりの本源的価値の見積方法

平成19年6月1日に付与されたストック・オプションについては、非上場であったため公正な評価単価を本源的価値により算定しております。なお、本源的価値を算出するための基礎となった算定時点における自社の株式の評価額は収益還元法によっております。

### 4 ストック・オプションの権利確定数の見積方法

将来の失効数の合理的な見積りは困難であるため、実績の失効数のみ反映させる方法を採用しております。

### 5 ストック・オプションの単位当たり本源的価値により算定を行う場合の当連結会計年度末における本源的価値の合計額及び権利行使されたストック・オプションの権利行使日における本源的価値の合計額

- |                               |          |
|-------------------------------|----------|
| ① 当連結会計年度末における本源的価値の合計額       | 21,157千円 |
| ② 当連結会計年度において権利行使された本源的価値の合計額 | 9,023千円  |



(税効果会計関係)

1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

(繰延税金資産)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当連結会計年度 (平成26年3月31日)
①流動資産		
貸倒引当金	5,178千円	5,425千円
賞与引当金	35,234 "	33,647 "
繰延売上利益	30,888 "	88,753 "
未払事業税	17,296 "	10,285 "
その他	20,078 "	24,760 "
繰延税金負債(流動)との相殺	△2,591 "	△4,103 "
計	106,083千円	158,769千円
評価性引当金	△61千円	－千円
計	106,022千円	158,769千円
②固定資産		
退職給付引当金	5,991千円	－千円
退職給付に係る負債	－ "	4,341 "
役員退職慰労引当金	4,656 "	7,024 "
貸倒引当金	3,915 "	－ "
減損損失	26,036 "	22,093 "
投資有価証券評価損	10,376 "	10,376 "
資産除去債務	88,623 "	95,925 "
その他	56,193 "	14,690 "
繰延税金負債(固定)との相殺	△33,970 "	△38,233 "
計	161,824千円	116,218千円
評価性引当額	△70,667千円	△14,547千円
計	91,157千円	101,671千円
繰延税金資産合計	197,179千円	260,441千円

(繰延税金負債)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当連結会計年度 (平成26年3月31日)
①流動負債		
建設協力金	2,591千円	3,074千円
その他	－ "	1,029 "
繰延税金資産(流動)との相殺	△2,591 "	△4,103 "
計	－千円	－千円
②固定負債		
資産除去債務に対応する除去費用	33,970千円	34,614千円
その他	－ "	5,446 "
繰延税金資産(固定)との相殺	△33,970 "	△38,233 "
計	－千円	1,827千円
繰延税金負債合計	－千円	1,827千円
差引：繰延税金資産純額	197,179千円	258,613千円

2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当連結会計年度 (平成26年3月31日)
法定実効税率 (調整)	38.45%	法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異が法定実効税率の100分の5以下であるため注記を省略しております。
住民税均等割	2.60 "	
交際費	1.53 "	
留保利益に対する法人税引当	1.73 "	
のれん償却額	0.21 "	
評価性引当金増加額	3.21 "	
その他	0.70 "	
税効果会計適用後の法人税等の負担率	48.43%	

3 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

「所得税法等の一部を改正する法律」(平成26年法律第10号)が平成26年3月31日に公布され、平成26年4月1日以後に開始する連結会計年度から復興特別法人税が課されないこととなりました。これに伴い、当連結会計年度の繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用した法定実効税率は、平成26年4月1日に開始する連結会計年度に解消が見込まれる一時差異について、前連結会計年度の38.45%から35.60%に変更されております。

その結果、繰延税金資産の金額(繰延税金負債の金額を控除した金額)が13,276千円減少し、当連結会計年度に計上された法人税等調整額が13,276千円増加しております。

(資産除去債務関係)

資産除去債務のうち連結貸借対照表に計上しているもの

(1) 当該資産除去債務の概要

教室及び店舗の不動産賃貸借契約に伴う原状回復義務等であります。

(2) 当該資産除去債務の金額の算定方法

使用見込期間は有形固定資産の耐用年数とし、割引率は当該耐用年数の期間に対応した国債の利回りを使用して資産除去債務の金額を計算しております。

(3) 当該資産除去債務の総額の増減

	前連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
期首残高	230,831千円	250,721千円
有形固定資産の取得に伴う増加額	20,588 "	22,812 "
時の経過による調整額	3,671 "	3,855 "
資産除去債務の履行による減少額	△4,369 "	△5,227 "
期末残高	250,721千円	272,161千円

(賃貸等不動産関係)

当社グループでは、大阪府において、賃貸用のオフィスビル等(土地を含む。)を有しております。

平成25年3月期における当該賃貸等不動産に関する賃貸損益は57,155千円(賃貸収益は売上高に、主な賃貸費用は売上原価に計上)であります。

平成26年3月期における当該賃貸等不動産に関する賃貸損益は50,639千円(賃貸収益は売上高に、主な賃貸費用は売上原価に計上)であります。

また、当該賃貸等不動産の連結貸借対照表計上額、期中増減額及び時価は以下のとおりであります。

(単位：千円)

		前連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
連結貸借対照表計上額	期首残高	373,450	368,572
	期中増減額	△4,878	68,251
	期末残高	368,572	436,824
期末時価		306,851	391,533

(注) 1 連結貸借対照表計上額は、取得原価から減価償却累計額及び減損損失累計額を控除した金額であります。

2 期中増減額のうち、前連結会計年度の主な減少は、減価償却費(4,878千円)であります。  
当連結会計年度の主な増加は、自社ビルの一部フロアを自社使用から賃貸用への振替(70,712千円)であり、減少は減価償却費(2,460千円)であります。

3 期末の時価は、主として「不動産鑑定評価基準」に基づいて自社で算定した金額であります。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、当社の取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、当社及び連結子会社を構成単位とする財務情報に基づき、事業の種類別に区分した単位により事業活動を展開しております。

従って、当社グループは事業の種類に基づき、「教育関連事業」「不動産賃貸事業」「飲食事業」の3つを報告セグメントとしております。

2 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と概ね同一であります。又、報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。

なお、セグメント間の売上高は、第三者間取引価格に基づいております。

3 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

	報告セグメント				調整額 (千円) (注) 1	連結財務諸表 計上額 (千円) (注) 2
	教育関連事業 (千円)	不動産賃貸事業 (千円)	飲食事業 (千円)	計 (千円)		
売上高						
外部顧客への売上高	9,443,202	54,663	191,173	9,689,040	—	9,689,040
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	27,296	—	27,296	△27,296	—
計	9,443,202	81,960	191,173	9,716,336	△27,296	9,689,040
セグメント利益	1,062,510	57,155	9,891	1,129,557	△478,155	651,402
セグメント資産	3,607,214	583,032	44,559	4,234,806	1,608,438	5,843,244
その他の項目						
減価償却費	237,217	7,680	3,700	248,597	19,231	267,829
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	296,753	—	—	296,753	18,335	315,089

(注) 1 調整額は、以下のとおりであります。

(1) セグメント利益の調整額△478,155千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用478,155千円であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

(2) セグメント資産の調整額1,608,438千円は、各報告セグメントに配分していない全社資産であります。

(3) 有形固定資産及び無形固定資産の増加額の調整額18,335千円は、本社の設備投資額であります。

2 セグメント利益は、連結財務諸表の営業利益と調整を行っております。

当連結会計年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

	報告セグメント				調整額 (千円) (注) 1	連結財務諸表 計上額 (千円) (注) 2
	教育関連事業 (千円)	不動産賃貸事業 (千円)	飲食事業 (千円)	計 (千円)		
売上高						
外部顧客への売上高	9,809,548	53,023	169,880	10,032,453	—	10,032,453
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	28,006	—	28,006	△28,006	—
計	9,809,548	81,030	169,880	10,060,459	△28,006	10,032,453
セグメント利益 又は損失(△)	923,118	50,639	△10,483	963,275	△445,569	517,705
セグメント資産	3,750,464	642,595	56,660	4,449,721	1,626,636	6,076,357
その他の項目						
減価償却費	240,516	7,911	2,899	251,328	20,813	272,141
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	451,546	—	9,742	461,288	9,740	471,028

(注) 1 調整額は、以下のとおりであります。

- (1) セグメント利益の調整額△445,569千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用445,569千円であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
  - (2) セグメント資産の調整額1,626,636千円は、各報告セグメントに配分していない全社資産であります。
  - (3) 有形固定資産及び無形固定資産の増加額の調整額9,740千円は、本社の設備投資額であります。
- 2 セグメント利益は、連結財務諸表の営業利益と調整を行っております。

#### 【関連情報】

前連結会計年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

#### 1 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

#### 2 地域ごとの情報

##### (1) 売上高

本邦以外の外部顧客への売上高がないため、該当事項はありません。

##### (2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

#### 3 主要な顧客ごとの情報

相手先が塾生及び不特定多数の一般顧客へのものが全体の100分の90以上を占めており、当該割合が100分の10未満のため記載を省略しております。

当連結会計年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

#### 1 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

#### 2 地域ごとの情報

##### (1) 売上高

本邦以外の外部顧客への売上高がないため、該当事項はありません。

##### (2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

#### 3 主要な顧客ごとの情報

相手先が塾生及び不特定多数の一般顧客へのものが全体の100分の90以上を占めており、当該割合が100分の10未満のため記載を省略しております。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

	教育関連事業 (千円)	不動産賃貸事業 (千円)	飲食事業 (千円)	全社・消去 (千円)	合計 (千円)
減損損失	10,735	—	—	—	10,735

当連結会計年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

	教育関連事業 (千円)	不動産賃貸事業 (千円)	飲食事業 (千円)	全社・消去 (千円)	合計 (千円)
減損損失	16,709	—	—	—	16,709

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

	教育関連事業 (千円)	不動産賃貸事業 (千円)	飲食事業 (千円)	全社・消去 (千円)	合計 (千円)
当期償却額	14,125	—	—	—	14,125
当期末残高	32,181	—	—	—	32,181

当連結会計年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

	教育関連事業 (千円)	不動産賃貸事業 (千円)	飲食事業 (千円)	全社・消去 (千円)	合計 (千円)
当期償却額	10,944	—	—	—	10,944
当期末残高	43,513	—	—	—	43,513

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

1 関連当事者との取引

(1) 連結財務諸表提出会社と関連当事者の取引

(ア) 連結財務諸表提出会社の役員及び主要株主（個人の場合に限る。）等

前連結会計年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金(千円)	事業の内容又は職業	議決権等の所有(被所有)割合(%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額(千円)	科目	期末残高(千円)
子会社の役員	嶋美貴	—	—	株式会社東京フェリックス取締役	—	金銭の貸付	貸付金の回収	2,409	その他(流動資産)	2,470
							利息の受取(注)2	351	長期貸付金	10,290

(注) 1 取引金額には、消費税等は含まれておりません。

2 取引条件及び取引条件の決定方針等

金銭の貸付については、市場金利を勘案して利率を合理的に決定しており、返済期間は8年としております。

当連結会計年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金(千円)	事業の内容又は職業	議決権等の所有(被所有)割合(%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額(千円)	科目	期末残高(千円)
子会社の役員	嶋美貴	—	—	株式会社東京フェリックス取締役	—	金銭の貸付	貸付金の回収	1,227	その他(流動資産)	2,501
							利息の受取(注)3	153	長期貸付金	9,032

(注) 1 取引金額には、消費税等は含まれておりません。

2 取引条件及び取引条件の決定方針等

金銭の貸付については、市場金利を勘案して利率を合理的に決定しており、返済期間は8年としております。

3 株式会社東京フェリックスは、平成25年10月1日付で当社を存続会社とする吸収合併により消滅しておりません。なお、同社の役員との取引は平成25年4月1日から平成25年9月30日までの金額を記載しており、期末残高については、平成25年9月30日時点の残高を記載しております。

(2) 連結財務諸表提出会社の連結子会社と関連当事者との取引

該当事項はありません。

2 親会社又は重要な関連会社に関する注記

該当事項はありません。

## (1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
1株当たり純資産額	332.49円	376.20円
1株当たり当期純利益金額	56.08円	52.85円
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益金額	55.77円	52.55円

(注) 1株当たり当期純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
1株当たり当期純利益金額		
当期純利益 (千円)	327,594	309,446
普通株主に帰属しない金額 (千円)	—	—
普通株式に係る当期純利益 (千円)	327,594	309,446
普通株式の期中平均株式数 (株)	5,841,613	5,855,709
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額		
当期純利益調整額 (千円)	—	—
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額の算定に 用いられた普通株式増加数の主要な内訳 (株)		
新株予約権	32,095	33,066
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当 たり当期純利益金額の算定に含まれなかった潜在株 式の概要	—	—

## (重要な後発事象)

該当事項はありません。



⑤ 【連結附属明細表】

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期末残高 (千円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	410,000	453,336	0.76	—
1年以内に返済予定の長期借入金	381,289	351,621	1.56	—
1年以内に返済予定のリース債務	49,601	38,425	1.84	—
長期借入金 (1年以内に返済予定のものを除く)	967,461	1,016,321	1.57	平成27年4月1日～ 平成39年9月10日
リース債務 (1年以内に返済予定のものを除く)	71,424	40,034	1.82	平成27年4月6日～ 平成31年2月4日
その他有利子負債	—	—	—	—
合計	1,879,775	1,899,738	—	—

(注) 1 「平均利率」については、借入金の期末残高に対する加重平均利率を記載しております。

2 長期借入金及びリース債務（1年以内に返済予定のものを除く）の連結決算日後5年内における1年ごとの返済予定額の総額は以下のとおりであります。

区分	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)
長期借入金	271,507	205,836	150,671	100,553
リース債務	23,058	11,686	4,015	1,273

【資産除去債務明細表】

連結財務諸表規則第15条の23に規定する注記事項として記載しているため、記載を省略しております。

## (2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
売上高 (千円)	1,798,377	4,596,825	7,615,259	10,032,453
税金等調整前四半期(当期) 純利益金額又は 税金等調整前四半期 純損失金額(△) (千円)	△362,778	37,540	629,151	493,915
四半期(当期)純利益金額又は 四半期純損失金額(△) (千円)	△237,298	2,312	386,296	309,446
1株当たり 四半期(当期)純利益金額又は 1株当たり 四半期純損失金額(△) (円)	△40.57	0.40	65.99	52.85

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり 四半期純利益金額又は 1株当たり 四半期純損失金額(△) (円)	△40.57	40.92	65.55	△13.11

## 2 【財務諸表等】

### (1) 【財務諸表】

#### ① 【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成25年3月31日)	当事業年度 (平成26年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	908,652	880,225
営業未収入金	792,080	872,484
商品	57,681	56,026
貯蔵品	10,655	22,643
前渡金	26,625	23,279
前払費用	120,209	126,236
繰延税金資産	142,952	152,586
1年内回収予定の長期貸付金	17,454	17,338
その他	4,299	8,873
貸倒引当金	△36,380	△30,382
流動資産合計	2,044,231	2,129,311
固定資産		
有形固定資産		
建物	※1 1,930,090	※1 2,091,747
減価償却累計額	△724,709	△852,570
建物(純額)	1,205,380	1,239,177
構築物	26,501	29,180
減価償却累計額	△9,382	△11,893
構築物(純額)	17,118	17,286
車両運搬具	7,429	9,019
減価償却累計額	△7,429	△8,214
車両運搬具(純額)	0	805
工具、器具及び備品	349,191	393,661
減価償却累計額	△201,325	△250,109
工具、器具及び備品(純額)	147,865	143,552
土地	※1 848,950	※1 848,950
リース資産	104,378	89,454
減価償却累計額	△43,318	△56,206
リース資産(純額)	61,059	33,247
有形固定資産合計	2,280,375	2,283,019
無形固定資産		
のれん	1,017	10,632
ソフトウェア	30,853	50,471
リース資産	66,616	40,172
その他	3,729	3,729
無形固定資産合計	102,216	105,005
投資その他の資産		
投資有価証券	28,322	29,941
関係会社株式	95,000	100,000
出資金	10	10
長期貸付金	97,597	81,613
関係会社長期貸付金	105,279	5,149
長期前払費用	42,959	45,582
繰延税金資産	84,283	97,711
差入保証金	770,642	798,173

(単位：千円)

	前事業年度 (平成25年 3月31日)	当事業年度 (平成26年 3月31日)
その他	59,303	60,564
貸倒引当金	△12,799	-
投資その他の資産合計	1,270,597	1,218,746
固定資産合計	3,653,189	3,606,771
資産合計	5,697,420	5,736,083
負債の部		
流動負債		
買掛金	133,198	129,254
短期借入金	※1 400,000	※1 453,336
1年内返済予定の長期借入金	※1 358,070	※1 311,816
リース債務	48,958	37,889
未払金	492,225	447,801
未払費用	139,218	149,241
未払法人税等	161,778	116,264
未払消費税等	67,049	63,259
前受金	557,971	612,352
預り金	11,878	12,384
賞与引当金	85,922	88,482
前受収益	213	-
関係会社整理損失引当金	108,121	-
その他	2,177	2,499
流動負債合計	2,566,784	2,424,581
固定負債		
長期借入金	※1 934,935	※1 900,621
リース債務	70,888	40,034
退職給付引当金	16,823	12,189
役員退職慰労引当金	12,194	18,288
資産除去債務	236,995	262,803
長期預り保証金	42,480	41,820
固定負債合計	1,314,316	1,275,758
負債合計	3,881,101	3,700,340
純資産の部		
株主資本		
資本金	231,208	233,608
資本剰余金		
資本準備金	171,208	173,608
資本剰余金合計	171,208	173,608
利益剰余金		
利益準備金	2,035	2,035
その他利益剰余金		
別途積立金	200,000	200,000
繰越利益剰余金	1,210,975	1,424,797
利益剰余金合計	1,413,010	1,626,832
自己株式	△52	△52
株主資本合計	1,815,375	2,033,996
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	944	1,746
評価・換算差額等合計	944	1,746
純資産合計	1,816,319	2,035,742
負債純資産合計	5,697,420	5,736,083

## ②【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月 31日)	当事業年度 (自 平成25年 4月 1日 至 平成26年 3月 31日)
売上高	9,050,651	9,482,192
売上原価	6,803,876	7,385,245
売上総利益	2,246,775	2,096,946
販売費及び一般管理費	※1 1,653,238	※1 1,595,967
営業利益	593,536	500,979
営業外収益		
受取利息	3,253	2,713
受取配当金	141	※2 20,244
祝金受取額	5,840	170
賃貸借契約解約益	17,400	-
受取事務手数料	※2 6,600	※2 7,400
保険解約返戻金	-	14,416
その他	4,634	5,227
営業外収益合計	37,869	50,172
営業外費用		
支払利息	27,638	25,849
解決金	3,832	-
その他	743	3,095
営業外費用合計	32,214	28,944
経常利益	599,192	522,206
特別利益		
貸倒引当金戻入額	-	299
特別利益合計	-	299
特別損失		
固定資産除却損	※3 3,284	-
減損損失	9,328	16,768
関係会社整理損失引当金繰入額	52,115	-
抱合せ株式消滅差損	-	27,261
特別損失合計	64,729	44,030
税引前当期純利益	534,463	478,476
法人税、住民税及び事業税	272,065	235,796
法人税等調整額	△27,121	△23,504
法人税等合計	244,943	212,291
当期純利益	289,519	266,185

【売上原価明細書】

区分	注記 番号	前事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)		当事業年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)	
		金額 (千円)	構成比 (%)	金額 (千円)	構成比 (%)
I 人件費	※1	4,100,452	60.2	4,514,037	61.2
II 教材費		389,379	5.7	416,713	5.6
III 経費		2,320,445	34.1	2,451,011	33.2
当期総売上費用		6,810,277	100.0	7,381,763	100.0
期首商品たな卸高		51,280		57,681	
合計		6,861,557		7,439,444	
期末商品たな卸高		57,681		54,198	
当期売上原価		6,803,876		7,385,245	

(注) ※1 主な内訳は、次のとおりであります。

項目	前事業年度	当事業年度
家賃 (千円)	1,184,244	1,264,110
水道光熱費 (千円)	182,844	213,180
消耗品費 (千円)	99,337	166,277
支払手数料 (千円)	158,087	142,603
減価償却費 (千円)	219,829	216,122

(原価計算の方法)

当社の原価は、授業に関連して直接発生した費用と一定の基準により按分した教室に関連する共通経費を計上しております。

③【株主資本等変動計算書】

前事業年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

(単位：千円)

	株主資本						
	資本金	資本剰余金		利益準備金	利益剰余金		利益剰余金 合計
		資本準備金	資本剰余金 合計		その他利益剰余金		
					別途積立金	繰越利益 剰余金	
当期首残高	230,708	170,708	170,708	2,035	200,000	971,969	1,174,004
当期変動額							
新株の発行 (新株予約権の行使)	500	500	500				
剰余金の配当						△50,513	△50,513
当期純利益						289,519	289,519
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)							
当期変動額合計	500	500	500	—	—	239,006	239,006
当期末残高	231,208	171,208	171,208	2,035	200,000	1,210,975	1,413,010

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	自己株式	株主資本 合計	その他 有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	△52	1,575,369	△886	△886	1,574,482
当期変動額					
新株の発行 (新株予約権の行使)		1,000			1,000
剰余金の配当		△50,513			△50,513
当期純利益		289,519			289,519
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)			1,831	1,831	1,831
当期変動額合計	—	240,006	1,831	1,831	241,837
当期末残高	△52	1,815,375	944	944	1,816,319

当事業年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

(単位：千円)

	株主資本						
	資本金	資本剰余金		利益準備金	利益剰余金		利益剰余金 合計
		資本準備金	資本剰余金 合計		その他利益剰余金		
					別途積立金	繰越利益 剰余金	
当期首残高	231,208	171,208	171,208	2,035	200,000	1,210,975	1,413,010
当期変動額							
新株の発行 (新株予約権の行使)	2,400	2,400	2,400				
剰余金の配当						△52,363	△52,363
当期純利益						266,185	266,185
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)							
当期変動額合計	2,400	2,400	2,400	—	—	213,821	213,821
当期末残高	233,608	173,608	173,608	2,035	200,000	1,424,797	1,626,832

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	自己株式	株主資本 合計	その他 有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	△52	1,815,375	944	944	1,816,319
当期変動額					
新株の発行 (新株予約権の行使)		4,800			4,800
剰余金の配当		△52,363			△52,363
当期純利益		266,185			266,185
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)			802	802	802
当期変動額合計	—	218,621	802	802	219,423
当期末残高	△52	2,033,996	1,746	1,746	2,035,742



## 【注記事項】

(重要な会計方針)

### 1 有価証券の評価基準及び評価方法

#### (1)子会社株式

移動平均法による原価法を採用しております。

#### (2)その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)を採用しております。

時価のないもの

移動平均法による原価法を採用しております。

### 2 たな卸資産の評価基準及び評価方法

商品

移動平均法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)を採用しております。

### 3 固定資産の減価償却の方法

#### (1)有形固定資産(リース資産を除く)

定率法を採用しております。ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備を除く)は定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物及び構築物 3年～39年

車両運搬具 2年～4年

工具、器具及び備品 3年～17年

#### (2)無形固定資産(リース資産を除く)

定額法を採用しております。

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法を採用しております。

#### (3)リース資産

所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産

自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法を採用しております。

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

### 4 引当金の計上基準

#### (1)貸倒引当金

債権の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

#### (2)賞与引当金

従業員に対して支給する賞与の支払に備えるため、賞与支給見込額の当事業年度負担額を計上しております。

#### (3)退職給付引当金

当社は、平成14年4月1日より確定拠出年金制度を採用しております。本制度移行においては退職一時金を確定拠出年金へ移管していないため、移行時の在籍従業員に対する退職一時金に係る退職給付引当金を計上しております。なお、退職給付債務は本制度移行前の退職一時金制度に基づき、簡便法により算定したものであります。

(4) 役員退職慰労引当金

役員退職慰労金の支出に備えるため、役員退職金規程に基づく期末要支給額を計上しております。

(5) 関係会社整理損失引当金

関係会社の整理に伴う損失に備えるため、当該関係会社の財政状態を勘案し、損失見込額を計上しております。

5 その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

消費税等の会計処理

税抜方式を採用しております。

(表示方法の変更)

以下の事項について、記載を省略しております。

- ・財務諸表等規則第8条の6に定めるリース取引に関する注記については、同条第4項により、記載を省略しております。
- ・財務諸表等規則第8条の28に定める資産除去債務に関する注記については、同条第2項により、記載を省略しております。
- ・財務諸表等規則第68条の4に定める1株当たり純資産額の注記については、同条第3項により、記載を省略しております。
- ・財務諸表等規則第95条の3の2に定める減損損失に関する注記については、同条第2項により、記載を省略しております。
- ・財務諸表等規則第95条の5の2に定める1株当たり当期純損益金額に関する注記については、同条第3項により、記載を省略しております。
- ・財務諸表等規則第95条の5の3に定める潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額に関する注記については、同条第4項により、記載を省略しております。
- ・財務諸表等規則第107条に定める自己株式に関する注記については、同条第2項により、記載を省略しております。
- ・財務諸表等規則第121条第1項第1号に定める有価証券明細表については、同条第3項により、記載を省略しております。

(貸借対照表関係)

※1 担保資産及び担保付債務

担保に供している資産は次のとおりであります。

	前事業年度 (平成25年3月31日)	当事業年度 (平成26年3月31日)
建物	430,359千円	412,171千円
土地	848,202 "	848,202 "
計	1,278,561千円	1,260,374千円

担保付債務は次のとおりであります。

	前事業年度 (平成25年3月31日)	当事業年度 (平成26年3月31日)
短期借入金	400,000千円	453,336千円
1年内返済予定の長期借入金	329,470 "	303,666 "
長期借入金	926,785 "	900,621 "
計	1,656,255千円	1,657,623千円

なお、上記担保に供している資産のうち、建物43,914千円及び土地25,328千円については、連結子会社の借入金(当期末残高2,605千円)に対して担保提供しております。

また、上記担保資産の根抵当極度額は1,155,000千円であります。

2 偶発債務

債務保証

次の関係会社について、金融機関からの借入金に対し債務保証を行っております。

	前事業年度 (平成25年3月31日)		当事業年度 (平成26年3月31日)
(株)アプリス	33,601千円	(株)アプリス	154,105千円
(株)個夢	2,700 "	(株)個夢	1,400 "
(株)東京フェリックス	18,332 "		
計	54,633千円	計	155,505千円

3 当座貸越契約

当社は、運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行と当座貸越契約を締結しております。当該契約に基づく当事業年度末の借入未実行残高は次のとおりであります。

	前事業年度 (平成25年3月31日)	当事業年度 (平成26年3月31日)
当座貸越限度額	600,000千円	910,000千円
借入実行残高	400,000 "	453,336 "
差引額	200,000千円	456,664千円

(損益計算書関係)

※1 販売費及び一般管理費のうち主要なものは次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当事業年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
広告宣伝費	669,228千円	637,306千円
給与手当	209,284 "	207,042 "
賞与引当金繰入額	12,683 "	12,968 "
貸倒引当金繰入額	23,136 "	14,043 "
役員退職慰労引当金繰入額	7,047 "	7,054 "
減価償却費	38,872 "	42,098 "
退職給付費用	3,695 "	3,662 "
販売費と一般管理費の構成比		
販売費	64.3%	65.7%
一般管理費	35.7%	34.3%

※2 各科目に含まれている関係会社に対するものは次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当事業年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
受取配当金	— 千円	20,000千円
受取事務手数料	6,600 "	7,400 "
計	6,600千円	27,400千円

※3 固定資産除却損の内訳は以下のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当事業年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
工具、器具及び備品	1,657千円	— 千円
ソフトウェア	1,206 "	— "
その他	420 "	— "
計	3,284千円	— 千円

(有価証券関係)

子会社株式は、市場価格がなく時価を把握することが極めて困難と認められるため、子会社株式の時価を記載しておりません。

なお、時価を把握することが極めて困難と認められる子会社株式の貸借対照表計上額は次のとおりです。

(単位：千円)

区分	前事業年度 (平成25年3月31日)	当事業年度 (平成26年3月31日)
子会社株式	95,000	100,000

(税効果会計関係)

1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

(繰延税金資産)

	前事業年度 (平成25年3月31日)	当事業年度 (平成26年3月31日)
①流動資産		
賞与引当金	33,037千円	31,499千円
未払事業税	15,401 "	10,139 "
貸倒引当金	5,178 "	5,425 "
関係会社整理損失引当金	41,572 "	— "
繰延売上利益	30,888 "	88,162 "
その他	19,467 "	20,432 "
繰延税金負債(流動)との相殺	△2,591 "	△3,074 "
計	142,952千円	152,586千円
②固定資産		
貸倒引当金	3,915千円	—千円
退職給付引当金	5,989 "	4,339 "
役員退職慰労引当金	4,341 "	6,510 "
減損損失	14,454 "	20,387 "
投資有価証券評価損	10,376 "	10,376 "
資産除去債務	84,888 "	93,558 "
その他	7,921 "	11,492 "
繰延税金負債(固定)との相殺	△32,955 "	△34,406 "
計	98,932千円	112,258千円
評価性引当額	△14,648千円	△14,547千円
計	84,283千円	97,711千円
繰延税金資産合計	227,236千円	250,297千円

(繰延税金負債)

	前事業年度 (平成25年3月31日)	当事業年度 (平成26年3月31日)
①流動負債		
建設協力金	2,591千円	3,074千円
繰延税金資産(流動)との相殺	△2,591 "	△3,074 "
計	—千円	—千円
②固定負債		
資産除去債務に対応する除去費用	32,955千円	33,440千円
その他	— "	965 "
繰延税金資産(固定)との相殺	△32,955 "	△34,406 "
計	—千円	—千円
繰延税金負債合計	—千円	—千円
差引：繰延税金資産純額	227,236千円	250,297千円

2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳

	前事業年度 (平成25年3月31日)	当事業年度 (平成26年3月31日)
法定実効税率	38.45%	38.45%
(調整)		
住民税均等割	2.82 "	3.40 "
交際費	1.81 "	1.49 "
受取配当金	— "	△1.61 "
留保利益に対する法人税引当	2.06 "	5.73 "
税率変更	— "	2.21 "
税額控除	— "	△3.37 "
合併による影響額	— "	△2.78 "
その他	0.69 "	0.85 "
税効果会計適用後の法人税等の負担率	45.83%	44.37%

3 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

「所得税法等の一部を改正する法律」(平成26年法律第10号)が平成26年3月31日に公布され、平成26年4月1日以後に開始する事業年度から復興特別法人税が課されないこととなりました。これに伴い、当事業年度の繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用した法定実効税率は、平成26年4月1日に開始する事業年度に解消が見込まれる一時差異について、前事業年度の38.45%から35.60%に変更されております。

その結果、繰延税金資産の金額(繰延税金負債の金額を控除した金額)が12,905千円減少し、当事業年度に計上された法人税等調整額が12,905千円増加しております。

(企業結合等関係)

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

## ④ 【附属明細表】

## 【有形固定資産等明細表】

資産の種類	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (千円)	当期末残高 (千円)	当期末減価 償却累計額 又は償却累 計額(千円)	当期償却額 (千円)	差引当期末 残高 (千円)
有形固定資産							
建物	1,930,090	193,837	32,180 (11,571)	2,091,747	852,570	147,718	1,239,177
構築物	26,501	2,679	—	29,180	11,893	2,511	17,286
車両運搬具	7,429	1,590	—	9,019	8,214	785	805
工具、器具及び備品	349,191	50,056	5,586 (648)	393,661	250,109	53,660	143,552
土地	848,950	—	—	848,950	—	—	848,950
リース資産	104,378	7,278	22,202 (4,348)	89,454	56,206	15,739	33,247
有形固定資産計	3,266,540	255,442	59,968 (16,569)	3,462,013	1,178,993	220,415	2,283,019
無形固定資産							
のれん	50,983	11,752	49,457	13,278	2,646	2,137	10,632
ソフトウェア	61,810	30,979	9,809	82,980	32,509	11,361	50,471
リース資産	132,218	—	—	132,218	92,046	26,443	40,172
その他	3,729	1,320	1,320	3,729	—	—	3,729
無形固定資産計	248,742	44,052	60,586	232,207	127,202	39,943	105,005
長期前払費用	142,425	16,103	71,129 (198)	87,399	41,816	13,317	45,582

(注) 1 当期増加額のうち主なものは次のとおりであります。

建物	新規開校教室建物附属設備	144,492千円
	既存教室建物附属設備	48,925 〃
工具、器具及び備品	新規開校教室器具備品	28,209 〃
	既存教室器具備品	20,105 〃
ソフトウェア	HPリニューアル構築	11,660 〃

2 「当期減少額」欄の( )内は内書きで、減損損失の計上額であります。

## 【引当金明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (目的使用) (千円)	当期減少額 (その他) (千円)	当期末残高 (千円)
貸倒引当金	49,180	28,368	21,840	25,325	30,382
賞与引当金	85,922	88,482	85,922	—	88,482
関係会社整理損失引当金	108,121	—	108,121	—	—
役員退職慰労引当金	12,194	7,054	960	—	18,288

(注) 貸倒引当金の「当期減少額(その他)」は、一般債権の貸倒引当金洗替額12,525千円及び会員権の売却等による戻入額12,799千円であります。

(2) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

(3) 【その他】

該当事項はありません。



## 第6 【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	9月30日、3月31日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り 取扱場所 株主名簿管理人 取次所 買取手数料	(特別口座) 大阪府大阪市中央区北浜四丁目5番33号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 (特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 — 無料
公告掲載方法	当会社の公告方法は、電子公告とする。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合の公告方法は、日本経済新聞に掲載する方法とする。 公告掲載URL <a href="http://www.kaisei-group.co.jp">http://www.kaisei-group.co.jp</a>
株主に対する特典	該当事項はありません。

## 第7 【提出会社の参考情報】

### 1 【提出会社の親会社等の情報】

当社には、金融商品取引法第24条の7第1項に規定する親会社等はありません。

### 2 【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

#### (1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書

事業年度 第27期（自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日）平成25年6月27日近畿財務局長に提出

#### (2) 内部統制報告書及びその添付書類

事業年度 第27期（自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日）平成25年6月27日近畿財務局長に提出

#### (3) 四半期報告書及び確認書

第28期第1四半期（自 平成25年4月1日 至 平成25年6月30日）平成25年8月12日近畿財務局長に提出

第28期第2四半期（自 平成25年7月1日 至 平成25年9月30日）平成25年11月14日近畿財務局長に提出

第28期第3四半期（自 平成25年10月1日 至 平成25年12月31日）平成26年2月14日近畿財務局長に提出

#### (4) 臨時報告書

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2（株主総会における議決権行使の結果）の規定に基づく臨時報告書

平成25年6月28日近畿財務局長に提出

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第3号（特定子会社の異動）の規定に基づく臨時報告書

平成25年10月1日近畿財務局長に提出

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

# 独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成26年6月26日

株式会社成学社  
取締役会 御中

仰星監査法人

代表社員  
業務執行社員 公認会計士 高谷 晋介 印

業務執行社員 公認会計士 洪 誠悟 印

## <財務諸表監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社成学社の平成25年4月1日から平成26年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

## 連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

## 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

## 監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社成学社及び連結子会社の平成26年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

## <内部統制監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、株式会社成学社の平成26年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

### 内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### 監査意見

当監査法人は、株式会社成学社が平成26年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

---

※1 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。

2 XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

# 独立監査人の監査報告書

平成26年6月26日

株式会社成学社  
取締役会 御中

仰星監査法人

代表社員  
業務執行社員 公認会計士 高谷 晋介 印

業務執行社員 公認会計士 洪 誠悟 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社成学社の平成25年4月1日から平成26年3月31日までの第28期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

## 財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

## 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

## 監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社成学社の平成26年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

## 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- 
- ※1 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。
- 2 XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

**【表紙】**

**【提出書類】** 内部統制報告書

**【根拠条文】** 金融商品取引法第24条の4の4第1項

**【提出先】** 近畿財務局長

**【提出日】** 平成26年6月26日

**【会社名】** 株式会社 成学社

**【英訳名】** SEIGAKUSYA CO., LTD.

**【代表者の役職氏名】** 代表取締役社長 太田 明弘

**【最高財務責任者の役職氏名】** 該当事項はありません。

**【本店の所在の場所】** 大阪府大阪市北区中崎西3丁目1-2

**【縦覧に供する場所】** 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 1 【財務報告に係る内部統制の基本的枠組みに関する事項】

代表取締役社長太田明弘は、当社の財務報告に係る内部統制の整備及び運用に責任を有しており、企業会計審議会の公表した「財務報告に係る内部統制の評価及び監査の基準並びに財務報告に係る内部統制の評価及び監査に関する実施基準の設定について（意見書）」に示されている内部統制の基本的枠組みに準拠して財務報告に係る内部統制を整備及び運用している。

なお、内部統制は、内部統制の各基本的要素が有機的に結びつき、一体となって機能することで、その目的を合理的な範囲で達成しようとするものである。このため、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

## 2 【評価の範囲、基準日及び評価手続に関する事項】

財務報告に係る内部統制の評価は、当事業年度の末日である平成26年3月31日を基準日として行われており、評価に当たっては、一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠した。

本評価においては、連結ベースでの財務報告全体に重要な影響を及ぼす内部統制（全社的な内部統制）の評価を行った上で、その結果を踏まえて、評価対象とする業務プロセスを選定している。当該業務プロセスの評価においては、選定された業務プロセスを分析した上で、財務報告の信頼性に重要な影響を及ぼす統制上の要点を識別し、当該統制上の要点について整備及び運用状況を評価することによって、内部統制の有効性に関する評価を行った。

財務報告に係る内部統制の評価の範囲は、会社並びに連結子会社について、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性の観点から必要な範囲を決定した。財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性は、金額的及び質的影響の重要性を考慮して決定しており、会社及び連結子会社1社を対象として行った全社的な内部統制の評価結果を踏まえ、業務プロセスに係る内部統制の評価範囲を合理的に決定した。なお、連結子会社1社については、金額的及び質的重要性の観点から僅少であると判断し、全社的な内部統制の評価範囲に含めていない。

業務プロセスに係る内部統制の評価範囲については、各事業拠点の前連結会計年度の売上高（連結会社間取引消去後）の金額が高い拠点から合算していき、前連結会計年度の連結売上高の概ね2/3に達している1事業拠点を「重要な事業拠点」とした。選定した重要な事業拠点においては、企業の事業目的に大きく関わる勘定科目として売上高、営業未収入金及び人件費に至る業務プロセスを評価の対象とした。さらに、選定した重要な事業拠点にかかわらず、それ以外の事業拠点をも含めた範囲について、重要な虚偽記載の発生可能性が高く、見積りや予測を伴う重要な勘定科目に係る業務プロセスやリスクが大きい取引を行っている事業又は業務に係る業務プロセスを財務報告への影響を勘案して重要性の大きい業務プロセスとして評価対象に追加している。

## 3 【評価結果に関する事項】

上記の評価の結果、当事業年度末日時点において、当社の財務報告に係る内部統制は有効であると判断した。

## 4 【付記事項】

該当事項はありません。

## 5 【特記事項】

該当事項はありません。



**【表紙】**

**【提出書類】** 確認書

**【根拠条文】** 金融商品取引法第24条の4の2第1項

**【提出先】** 近畿財務局長

**【提出日】** 平成26年6月26日

**【会社名】** 株式会社 成学社

**【英訳名】** SEIGAKUSYA CO.,LTD.

**【代表者の役職氏名】** 代表取締役社長 太田 明弘

**【最高財務責任者の役職氏名】** 該当事項はありません。

**【本店の所在の場所】** 大阪府大阪市北区中崎西3丁目1-2

**【縦覧に供する場所】** 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

1 【有価証券報告書の記載内容の適正性に関する事項】

当社代表取締役社長太田明弘は、当社の第28期(自平成25年4月1日 至平成26年3月31日)の有価証券報告書の記載内容が金融商品取引法令に基づき適正に記載されていることを確認いたしました。

2 【特記事項】

確認に当たり、特記すべき事項はありません。